

平成25年度リージョナルシアターモデル事業
Regional Theatre Projects
事業報告書



INDEX-目次-

はじめに	P 3
事業概要	P 4
派遣アーティストプロフィール	P 6
事業の流れ	P 7
研修プログラム	P 8
参加ホールプログラム一覧	P 9
事業実施	
上田市 実施データ	P 10
内藤裕敬インタビュー	P 12
学校アンケート	P 14
豊田市 実施データ	P 16
岩崎正裕インタビュー	P 18
学校アンケート	P 20
高知市 実施データ	P 22
多田淳之介インタビュー	P 24
中学校アンケート	P 26
田上 豊インタビュー	P 28
小学校アンケート	P 30
学校アンケート用紙	P 32
アウトリーチ実施校データ	P 36

はじめに

財団法人地域創造では、地域における創造的で文化的な表現活動のための環境づくりを目的として、地方公共団体等との緊密な連携のもと、全国の地方公共団体や関連の公益法人などが実施する文化・芸術活動に対し支援を行なうほか、財団の自主事業として、研修交流事業、公立文化施設活性化推進、調査研究等の事業に取り組んでいます。

本事業は、演劇の表現者(演出家)を公共ホールに最大3回派遣し、演劇の手法を使ったワークショップを実施する事業としてリニューアルし、平成25年度はモデル事業として、上田市、豊田市民文化会館、高知市文化プラザかるぽーと、の3団体で実施しました。

各参加ホールのプログラムは、地域のニーズに合わせて自由に企画され、小学校や中学校へ出向き授業時間を使ってのアウトリーチ、中学校の演劇部での演劇の基礎指導、市役所職員の新人研修、更には地元で演劇活動をする表現者がワークショッププログラムをつくる過程のサポートなど、多彩なプログラムとなりました。

この報告書は、「平成25年度リージョナルシアターモデル事業」において実施した事業内容をまとめたものです。地域の公立文化施設の職員や地方公共団体の芸術文化担当者が、演劇の手法を活用したワークショップを企画される際や、公共ホールの担当者と地域の表現者の共同作業を行う際の参考としていただければ幸いです。

平成26年3月
財団法人 地域創造

事業概要

1 趣旨

財団法人地域創造は、公共ホールの活性化と創造的で文化的な芸術活動のための環境づくりに寄与し、あわせて公共ホールスタッフ等の企画・制作能力の向上と創造性豊かな地域づくりに資することを目的として、演劇の表現者(演出家)を公共ホールに派遣し演劇の手法を使ったワークショップを実施します。

2 対象団体

①地方公共団体

②地方自治法第244条の2第3項の規定に基づき指定管理者として指定を受け、公の施設の管理を行う法人その他の団体。

③地域における芸術文化活動の振興に資することを目的として設立された、公益法人制度改革三法※による特例民法法人、公益財団法人等((2)を除く。)のうち、地方公共団体が資本金、基本金その他これらに準ずるものを出資している法人で地域創造が特に認めるもの。

※「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律」、「公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律」及び「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律」

3 事業内容

演劇の表現者(演出家、以下派遣アーティスト)を公共ホールに派遣し、演劇の手法を使ったワークショップを実施します。派遣アーティストは各地域最大3回(研修会を除く)まで派遣します。

(1)プログラムの実施時間

午前・午後の時間帯に計360分のプログラム、夜間(常識的な開催時刻)の時間帯に計480分のプログラムを実施します。日数と時間の配分は参加団体が提案します。

(2)派遣回数

最大3回の派遣を行います(研修会を除く)。1回目は打合せや内部の研修、アウトリーチ先の下見に充ててください。

残り2回でプログラムを実施しますが、連続した日程にするなど派遣回数を計2回とする場合は、2回目が原則5泊6日になります。

【実施時間の考え方】

・プログラムの実施時間

午前・午後の360分、夜間(常識的な開催時刻)の480分のワークショップの時間を最小限とし、時間の配分や派遣回数は、参加団体の企画をもとに表現者と微調整します。この時間数や日数を超えるプログラムの場合は、別途謝金や経費が発生し、参加団体の負担となります。

・学校でのアウトリーチについて

学校(小・中・高校等)の授業枠でアウトリーチを実施する場合、1コマの時間は、小学校では45分×2時限(90分)、中学・高校等では50分×2時限(100分)を最小限とします。また、1コマの対象人数は1クラス約30人を目標にしています。

4 支援措置

(1)財団法人地域創造が負担する経費

①派遣アーティストにかかる経費

派遣アーティストに係る研修会及び、下見、プログラム実施にかかる派遣3回分までの経費(謝金、交通費、宿泊費等)は地域創造が負担します。学校でのアウトリーチを実施する場合のアシスタント2名分の経費(謝金、交通費、宿泊費等)は地域創造が負担します。

(2)参加団体が負担する経費

①研修会参加にかかる経費

ホール担当者の研修会の旅費(交通費、宿泊費等)は、参加団体の負担になります。

②プログラム実施にかかる経費

プログラムを実施する際の経費(会場使用料、機材使用料、消耗品等)は、参加団体の負担となります。

③その他

規定の時間や日数を超える企画の場合に発生する別途謝金や旅費等の経費は、参加団体の負担となります。参加申込書及び実施計画書を考慮の上、決定します。なお、派遣アーティストの指定はできません。

5 プログラムについて

プロの演出家が地域で演劇のワークショップを行うことで、各地域の課題に取り組むことが可能になります。

演劇の手法を使った学校でのアウトリーチ、地元の演劇人や学校の先生、行政職員を対象にした研修会、地元の若い演劇人が派遣アーティストのアシスタントとしてワークショップに関わりステップアップを試みる、子どもたちを対象に演劇に触れる時間を持つなど、地域独自の様々なプログラムを自由に作成していただけます。

派遣アーティスト プロフィール

派遣アーティストは派遣先の地域でワークショップを行う講師を務める他、公共ホールの企画するプログラムの内容について、ホール担当者と共に企画検討を行うコーディネーターの役割も兼ねます。

内藤 裕敬 (劇作家・演出家、南河内万歳一座座長)



1959年栃木県生まれ。南河内万歳一座・座長。高校の時に状況劇場『蛇姫様』(作・演出／唐十郎)を見て芝居の道へ。1979年、大阪芸術大学(舞台芸術学科)に入学。4年間、秋浜悟史教授(劇作家・演出家)に師事。その間、「リアリズムにおけるインチキの仕方」を追求。1980年、南河内万歳一座を『蛇姫様』で旗揚げ。以降、全作品の作・演出を手がける。

現代的演劇の基礎を土台とし、常に現代を俯瞰した作品には定評があり、兵庫県立ピッコロ劇団や世界的ピアニスト・仲道郁代との共同企画など、劇団外での作・演出も多数。2000年読売演劇大賞・優秀演出家賞受賞。著作に『内藤裕敬処女戯曲集劇風録其之壱』『青木さん家の奥さん』がある。

岩崎 正裕 (劇作家・演出家、劇団太陽族主宰)



1963年三重県鈴鹿市生まれ。1982年大阪芸術大学舞台芸術学科入学。同年「劇団大阪太陽族」(現：劇団太陽族)を旗揚げ。1994年「レ・ボリューション」で第1回OMS戯曲賞佳作、1997年「ここからは遠い国」で第4回OMS戯曲賞大賞を受賞。その他1997年大阪市さくやこの花賞、1999年兵庫県芸術奨励賞、2000年大阪府舞台芸術奨励賞などを受賞。各地でプロデュース公演・市民参加舞台の作・演出を手掛け、舞台芸術普及活動を広く展開している。

現在、伊丹市立演劇ホールアイホール劇場ディレクター、NPO法人大阪現代舞台芸術協会理事長、大阪芸術大学短期大学講師など。

多田 淳之介 (演出家・俳優、東京デスロック主宰)



1976年生まれ、千葉県柏市出身。演出家、俳優。東京デスロック主宰。富士見市民文化会館キラリふじみ芸術監督。青年団演出部。俳優の身体、観客、劇場空間を含めた、「現前＝現象」をフォーカスした演出が特徴。古典から現代劇、パフォーマンス作品まで幅広く手がける。「演劇LOVE」を公言し、富士見市を中心に、他地域、教育機関でのアウトリーチ活動、創作活動も積極的に行い、韓国、フランスでの公演、共同製作など国内外問わず活動する。2010年4月に演劇部門では国内歴代最年少で公共文化施設の芸術監督に就任。おもな演出作品に『ロミオとジュリエット』『その人を知らず』『あなた自身のためのレッスン』『LOVE』『再／生』など。

田上 豊 (劇作家・演出家、田上パル主宰)



1983年熊本県生まれ。桜美林大学文学部総合文化学科卒業。在学中に劇団「田上パル」を結成。方言を多用し、疾風怒濤の勢いと、遊び心満載の舞台は「体育会系演劇」とも評される。劇団外でも、高校生、大学生とのクリエイション、市民劇団や公共ホール事業への書き下ろしなど、プロアマ問わず、様々な形で活動を展開。演劇部の嘱託顧問や表現科目「演劇」の授業を持つなど、教育現場での経験も持つ。大学在学中にワークショップデザインに触れ、その後、創作型から体験型、育成講座まで幅広くワークショップを行う。現在、富士見市民文化会館キラリふじみアソシエイトアーティスト、青年団演出部所属。

事業の流れ

① 参加団体の決定（平成25年2月）

② 研修会（平成25年4月25、26日）

会場：豊田市民文化会館(1泊2日)

内容：参加団体のホール担当者、参加団体の地元表現者、派遣アーティスト、地域創造スタッフ、関係者全員が参加する研修会。派遣アーティストのワークショップ、セミナー、ディスカッションを行う中で、共通認識を持ち、情報交換を行う。

③ 1回目派遣(各現地にて1泊2日)

内容：派遣アーティストと地域創造スタッフが現地に出向き打合せと会場下見、インリーチを行う。

日程：上田／7月16、17日 豊田／8月19、20日 高知／10月15日

④ 2回目派遣(各現地にて原則3泊4日)

内容：現地にてプログラムの実施。

学校アウトリーチ、市役所職員対象ワークショップ、公募型ワークショップ、地元表現者と共にワークショップのプログラムづくり等。

日程：上田／8月10～12日 豊田／11月18～20日 高知／11月21～25日

⑤ 3回目派遣(各現地にて原則3泊4日)

内容：現地にてプログラムの実施。

必ず最終日には、事業全体のフィードバックを行う。

日程：上田／8月28～31日 豊田／平成26年2月12～14日 高知／3回目派遣なし。

※2回目派遣が4日間連続のプログラム(原則5泊6日)の場合は、3回目派遣はありません。

研修プログラム

	平成25年4月25日(木)	平成25年4月26日(金)
10:00		10:00～12:00 ディスカッション
11:00		前日の演劇ワークショップ及び公開セミナーについての振り返りとアウトリーチについてのディスカッション。 各参加団体の企画内容と各地域の特色について、全参加団体で情報の共有を行い、それぞれの地域の良さについて客観的な意見交換を行う。
12:00		12:00～13:00 昼食
13:00		13:00～15:00 企画内容の検討 各参加団体に分かれて、派遣アーティストとそれぞれの企画内容について協議。
14:00	14:00～14:20 オリエンテーション・挨拶・関係者紹介	
15:00	14:30～16:30 公開演劇ワークショップ 講師：多田淳之介、田上 豊	15:00～15:30 事務連絡
16:00	参加ホール担当者、地元表現者が、演劇ワークショップを体験する。前半は、田上豊氏がコミュニケーションゲームを中心に心と体をほぐすプログラム。 後半は、多田淳之介氏が「走れメロス」を題材にグループで1シーンを演出するプログラム。	
	16:30～16:45 休憩	
17:00	16:45～18:45 ※公開セミナー「教育現場とアウトリーチ」 講師：苅宿 俊文(青山学院大学社会情報学部教授)	
18:00	今、なぜ教育現場(学校)で芸術のワークショッププログラムを行うのか。芸術分野のワークショップにどのような可能性が見出されるのかについての講演。	
	18:45～19:00 休憩・移動	
19:00	19:00～ 交流会(自由参加、会費制)	

※公開セミナーの参加者数/事業参加団体 18名、愛知県内ホール職員 13名、豊田市関係者 54名 計 85名

参加ホールプログラム一覧

●上田市（長野県）

1回目派遣		2回目派遣		3回目派遣			
7月16日(土)～17日(水)		8月11日(土)～12日(日)		8月28日(水)～30日(金)			
打合せ 学校下見 会場下見等	午前	高等学校演劇班へのWS	高等学校演劇班へのWS	午前	/	中塩田小学校でのアウトリーチ①(1クラス)	中塩田小学校でのアウトリーチ②(1クラス)
		105分	105分			90分	90分
	午後	高等学校演劇班へのWS	高等学校演劇班へのWS	午後	中学校演劇班へのアウトリーチ	市役所新規採用職員研修でのWS	中塩田小学校でのアウトリーチ③(1クラス)
		120分	120分			100分	120分
							フィードバック

○高等学校演劇班へのワークショップ（以下WSと記載）は、市内の高校演劇部員を対象に実施。

●豊田市（愛知県）

1回目派遣		2回目派遣		3回目派遣			
8月19日(月)～20日(火)		11月19日(火)～20日(水)		2月12日(水)～14日(金)			
打合せ インリーチ 学校下見 会場下見等	午前	/	明和小学校でのアウトリーチ②	午前	/	/	中山小学校のアウトリーチ②(1クラス)
			90分				90分
	午後	明和小学校でのアウトリーチ①	/	午後	中山小学校のアウトリーチ①(1クラス)	一般対象のWS③	中山小学校のアウトリーチ③(1クラス)
19～21時	一般対象のWS①	/	19～21時	一般対象のWS②	/	/	
							120分
							フィードバック

○明和小学校は全校（1～6年生/21人）で2日間連続実施。

○一般WS②は地元表現者がファシリテーター、一般WS③は②の振り返り及び事例紹介の2コマ実施。

●高知市（高知県）

1回目派遣		2回目派遣					
10月15日(火)		11月20日(水)～24日(日)					
打合せ 会場下見 学校下見等	午前	/	/	行川中学校でのアウトリーチ	/	/	
				100分			
	午後	学校下見	第六小学校でのアウトリーチ(1クラス)	/	一般対象のWS①	一般対象のWS②	
					90分	90分	80分
19～21時	/	地元表現者対象のWS①	地元表現者対象のWS②	地元表現者対象のWS③	地元表現者対象の全体の振り返り		
		120分	120分	120分	120分		
							フィードバック

○行川中学校は全校（1～3年生/23人）で実施。

○一般対象WS①は劇場関係者、教育関係者を対象としたインリーチ、②は公募の子ども達を対象に、地元表現者がファシリテーターで実施。

○地元表現者対象のWS①～③は、地元表現者が企画するワークショッププログラムづくりを実施。

※ 要綱の規定の時間や日数を超える企画の場合に発生する別途謝金や旅費等の経費は、参加団体の負担となる。

●上田市(長野県)

参加館 実施データ

実施団体	上田市
実施ホール	上田市交流文化芸術センター (2014年10月開館予定)
担当者	横尾 慎二、掛川泰督
派遣アーティスト	内藤 裕敬
アシスタント	鈴村貴彦(2回目派遣)・福重友(3回目派遣)
<p>1回目派遣の内容</p> <p>上田市立中塩田小学校との打合せ (実施団体の紹介、実施内容の確認と調整、会場の下見)</p> <p>長野県高等学校演劇連盟との打合せ (実施団体の紹介、実施内容の確認と調整)</p> <p>上田市との打合せ (実施内容の確認、使用する絵の選定、会場の下見)</p> <p>上田市立第一中学校との打合せ (実施団体の紹介、実施内容の確認と調整、会場の下見)</p>	
<p>2回目派遣の内容</p> <p>長野県高等学校演劇連盟東信地区</p> <p>(日 時) 8月12日(月) 3校16名 / 8月13日(火) 3校22名 勤労者福祉センター</p> <p>(内 容) 準備体操、歩きながらイメージを持つ、腹筋を使って発声、手足を『開いて閉じる』運動 「屋上」のテキストを使っての指導など</p>	
<p>3回目派遣の内容</p> <p>上田市立第一中学校演劇班</p> <p>(日 時) 8月28日(水) 24名 上田市立第一中学校 スカイルーム</p> <p>(内 容) 歩きながらイメージを持つ、腹筋を使って発声、手足を『開いて閉じる』運動</p> <p>上田市立中塩田小学校4年生</p> <p>(日 時) 8月29日(木) 2組 32名 / 8月30日(金) 3組31名・1組32名</p> <p>上田市立中塩田小学校 ランチルーム</p> <p>(内 容) 準備体操、音楽(CD)と絵(上田市の作家)を使ってイメージを言葉にする。 音楽のイメージを絵にする。</p> <p>上田市役所新規採用職員</p> <p>(日 時) 8月29日(木) 28名 上田市役所6階大会議室</p> <p>(内 容) 準備体操、「モナリザ」の絵を使ってイメージを伝える。 音楽(CD)と絵(上田市の作家)を使ってイメージを言葉にする。</p>	

1～3回目派遣のスケジュール

	1回目 7月16日(火)	2回目 8月10日(土)	3回目 8月28日(水)
9:00			
10:00	高校演劇連盟 打合	高等学校演劇班 WS (10:45~12:00)	高等学校演劇班 WS (10:45~12:00)
11:00	市役所打合		
12:00	(昼食)	(昼食)	(昼食)
13:00	★到着	★到着	★到着
14:00	↓ 第一中学校 下見・打合	高等学校演劇班 WS (13:00~15:00)	高等学校演劇班 WS (13:00~15:00)
15:00	↓ 中塩田小学校 下見・打合	↓ 市役所下見	↓ 新規採用職員 WS (15:00~17:00)
16:00	↓ 中塩田小学校 下見・打合		↓ 第一中学校 WS (16:00~17:40)
17:00	↓ 勤労者福祉 センター下見		↓ フィードバック
18:00			
19:00			
20:00			
21:00			
22:00			

●この事業への参加理由

文化芸術を通じた東信濃の新たなまちづくりの拠点として、開館準備を進めている上田市交流文化芸術センターでは、『地域交流活動（アウトリーチ）』や『参加体験型事業（ワークショップ）』の積極的な実施を計画しています。この「リージョナルシアターモデル事業」には、これらの活動を実施するうえで参考となるノウハウが集約されていて、この事業をプレ企画として実施させていただくことで、施設の取り組みを広くアピールしていくことと併せて、劇場スタッフのスキルアップのための貴重な機会にしたいと思い参加いたしました。

また、この事業では地域独自のプログラムを作成できることにも魅力を感じ、表現者や地域創造の方々からアドバイスをいただき、上田市の特色や抱えている課題、求められている事業の方向性やニーズ等を考慮しながらプログラムを立案し、上田市の新たな試みの第一歩としていきたいと考えました。

●今回のプログラムの目的と成果

①小学校へのプログラム

（目的）子どもたちの創造力や感受性の育成を目的と考えました。

（成果）日頃見ることができない子どもたちの一面を見ることができたが、本プログラムは小学生には少し難しいとも感じました。

②中・高校演劇班へのプログラム

（目的）表現力のレベルアップを目的と考えました。

（成果）広く東信地域の高校生を対象にしたことで高校生同士の交流が生まれた他、来年度の開催を望む声も聞くことができ、継続実施の手応えを感じることができました。

③上田市の新規採用職員へのプログラム

（目的）地域リーダーに求められる資質の向上を目的と考えました。

（成果）このプログラムにより、これから始動する交流文化芸術センター事業の入口を体感していただくことができ、新規採用職員の文化芸術に対する意識の向上を見ることができました。また、市幹部職員等がワークショップを見学することで、事業の必要性が理解され、更なる行政内部の理解者の獲得が出来ました。

※上記の目的の他に、幅広い世代に実施することで、『地域交流活動』『参加体験型事業』の効果的なターゲットを見つけることも目的としました。

●この事業全体を振り返って

プレ事業として、これらの施設の取組みや事業展開を広くアピールしていくことと併せて、職員のスキルアップを図ることができました。

特に、書面で説明していたワークショップの内容を、実際に観て、体験いただくことで、『育成』を柱とした『参加・体験』事業のイメージを、市の職員や学校関係者など多くの方に紹介することができ、理解していただくことに繋がりました。

●今後の事業展開

平成 26 年度から実施する「レジデンス・アーティスト事業」の中で、この取り組みや結果を踏襲した事業を実施していくことで、より多くの幅広い世代の方々に様々な経験や感動を伝えていきたいと考えています。

○音楽部門

市内各地域の小学校等に出かける「クラスコンサート」（アウトリーチ）

○演劇・ダンス部門

高校生以上を対象にして、劇場での参加・体験を重点としたワークショップ

内藤裕敬インタビュー

平成25年10月14日 大阪にて

■今回のワークショップ

今回のプログラムは年齢に関係なく小学生から社会人まで使えます。想像力に働きかけるだけの時間を90分提供したい。そうはいつでも小学生だから飽きてしまうといけないので、プログラムにある程度の変化とスピード感がある。徐々に転がして膨らませて発展させてどこかに持っていくということをしないといけない。ぶつ切りの遊びを提供しても、また一から始めて終わったらまた次を一から始めるという形になって、その繰り返しだとスタミナ切れしてくる。音楽を聴くこと、絵を見ること、絵を描くことの、3本柱の3段階の変化があることは90分のプログラムでは重要なこと。尚かつその最後に絵を描くことまでもっていき、絵を描くことを楽しんで集中できていればそのプログラムがうまくいったのか、いかなかったのかの判断も明らかにできる。学校の先生もそのあたりでこのプログラムが子供たちにとって、有効な時間だったかどうか判断しやすい。そういう意味でこっこの計算と結果的に受ける側の学校としてもわかりやすいのではないかと思います。このプログラムは直接的に演劇のプログラムには見えないが、そういう体験をすることを演劇の作法を使って提供していくことを僕は考えています。つまりは、演劇の演出の要素を持ち込んで自由な芸術の時間を提供しているから演劇のワークショップと言えなくもないですね。高校生の演劇部にはテキストを使って想像力をふくらませて、イメージを豊かに膨らませなければセリフも言えないし、舞台の上にも立っていることもできないんだってことをやります。演劇を使って創造性・芸術表現の豊かさをみたいなことと一緒に教えるわけですから小学生のプログラムと入口と遊び道具が違うだけでやっていることは同じです。演劇を勉強したいという子には演劇をやった方が興味をもつし、別に演劇をやりたいと思っていないのに演劇をやりますよといっても、セリフを言わされたら嫌だよってなる人もいますでしょ。そういうところに演劇の台本持ち込んだら駄目になると思います。やはりプログラムの仕掛けは、緻密にやっていないように見せているだけで緻密にやらないと90分持たないですからね。



■芸術系プログラムと企業系研修との違い

企業系研修のロジカルなものを作ることはちゃんとできるけど、今回のプログラムは遊び心だから遊び心にも論理性がある。遊び心の論理性というのは、ちゃんと論理がないといけないがそれは論理があればいいわけではなくて、その論理を積み上げて実施すると論理を超えた創造世界にたどりつけるような可能性をもった論理でなければいけない。論理を超える可能性をもった論理をつけないといけないのが芸術系のプログラムだと思います。企業系研修は合理性です。伝えるものをどう講義とは違う形でどうやって合理的に伝えるかというプログラム。世の中には家族とか恋人同士とか友人関係とか夢とか希望とか合理化でないものがいっぱいある。逆に非合理だから面白い。結局経済システムの中にいるけれどそのシステムで生きているのではなくて、その周りの非合理なものがいっぱいあってそれを楽しんで生きているから人生や人間関係が豊かになる。それは仕事にもつながる。いい商品を作って儲かったのでコストを下げて大量生産して合理化した。そしたら、品質が下がって大量に在庫が余って会社が倒産したというケースもある。それは合理化の失敗だけどなぜ最初に売れたのか。それはそれによって人が便利だと思ったから。自分の生活が豊かになるとかそれによって人の生活とか何かに非常にプラスになったから。使う人がそれを素晴らしいと思ったから。なぜ素晴らしいと思ったか、創造力が働いてこれがあれば満たされるんじゃないか、そういう良い商品を開発したから利潤も上がった。ところが、その非合理的な人間生活の部分を置いて無関係に合理化したおかげで商品が売れなくなる。つまり人間の生活の合理と非合理は表裏一体で両方で生きている。そういう意味で企業系研修の合理的なプログラムと芸術系のプログラムを一緒にしてはいけない。非合理の素晴らしさをやらなければいけない。それは基本的に専門家が発想するので、そう簡単に誰にでも発想できるものではないと思います。



■上田市について

上田駅から歩いてすぐにきれいで大きな千曲川があり、肥沃な土壌の田んぼが広がっていてほっとする感じがあった。畑や田園、古い建物、真田の山城の跡と町全体が広々していてゆとりのある感じがいい。さびれた田舎町という印象は全くなく、静かでいいところだと思います。職員の方々は、劇場をつくるのも初めてだし、美術館も入るし、先行事業としてこの事業に取り組みノウハウや経験値がない中、ゼロベースで物事を新鮮に見て、いろいろ判断して、これからのことに繋げようとされていて好意的な好奇心をお持ちだと思いました。いろいろな地域に行くと、学校によっては固まった教育方針があってワークショップとか芸術系のプログラムにアレルギーを持っている人もいるし、また知らないからアレルギーを持っているという人もいる。そういう環境を崩していかなければならないとなるとゼロからのスタートではなくて、マイナスからのスタートをすることになる。一度ゼロにリセットしてスタートしないとイケない。ゼロにするために膨大な時間と体力が必要になる。けれど上田の町は、行政の方もそうだけど結局ゼロからスタート。そのための好奇心と期待をもっている。学校もどういものかわからないと思ってもそれに対してあらかじめネガティブなものを持っているわけではなくゼロスタートができる。つまり町全体が、地域全体が、新しい劇場ができるらしい、これから何をやっていくのだろう、それに対して大きな興味を持っているかどうかは別だけど何かやりましようと言ったらゼロからスタートできる環境だと思った。マイナスからのスタートにならない地域じゃないかなと思う。ゼロからスタートできる地域は少ないのでうまくやっていってほしいですね。

■小学校アウトリーチの基本的な流れ

①体を動かす

ジャンプしながら足と腕を交互に「開いたり」「閉じたり」を繰り返す。足と腕の動きを変えるなど4つのパターンでジャンプする。

緊張している体と気持ちをほぐし、自分の思っているように体が動かないことを知る。

②曲を聴いて想像する

5曲の情感豊かな自然や動物を感じさせるピアノ曲を聴いて、この曲は「甘く感じるか、しょっぱく感じるか」「海が見えるか、山が見えるか」「春・夏・秋・冬の季節に感じるか」「どんな動物が見えるか」「何が見えて何を感じるか」を1曲ずつ子供たちから聞き出していく。

後半に描く絵が想像しやすくするための準備。

③絵や写真を見て曲を聴いて想像する

3枚の絵や写真を並べてクラシック音楽を流す。この曲のイメージがどの絵に一番近いかな想像する。なぜこの絵や写真だと思ったのか子どもたちから聞き出していく。

後半に描く絵が想像しやすくするための準備。

④現代音楽を聴きながら自由に絵を描く

独創的で抽象絵画のような現代音楽を聴きながら自由に絵を描く。

①から③の流れでできた想像力をフルに発揮して自由に描く。どこにも正解がない世界で子どもたちが自由に発想し、みんなの前で発言することで自信をもちクラスメイトも友達の気づかなかった一面を見る機会になる。絵を描くことが苦手な子どもでも色や線だけでも正解がなく描けることで上手く描かなくてもいいことがハードルを下げている。

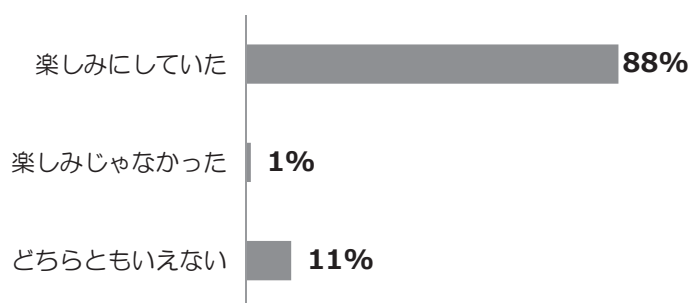
—学校アンケート（上田市）—

アウトリーチを実施した小学校4年生3クラスの児童に対し、アンケートを実施した。
 【回収状況】児童対象調査・94件
 ※8～11は複数回答

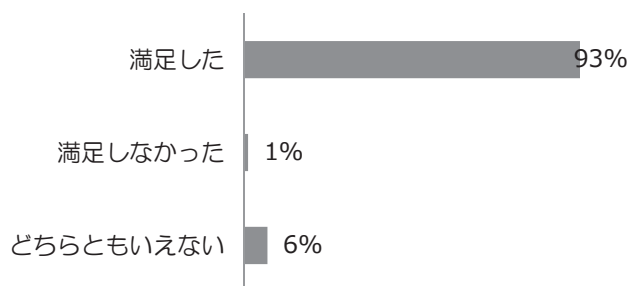
2. 性別



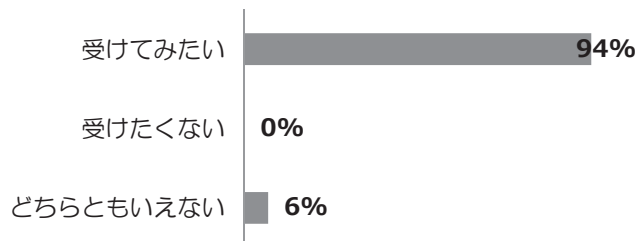
5. 今回の時間を前から楽しみにしていましたか



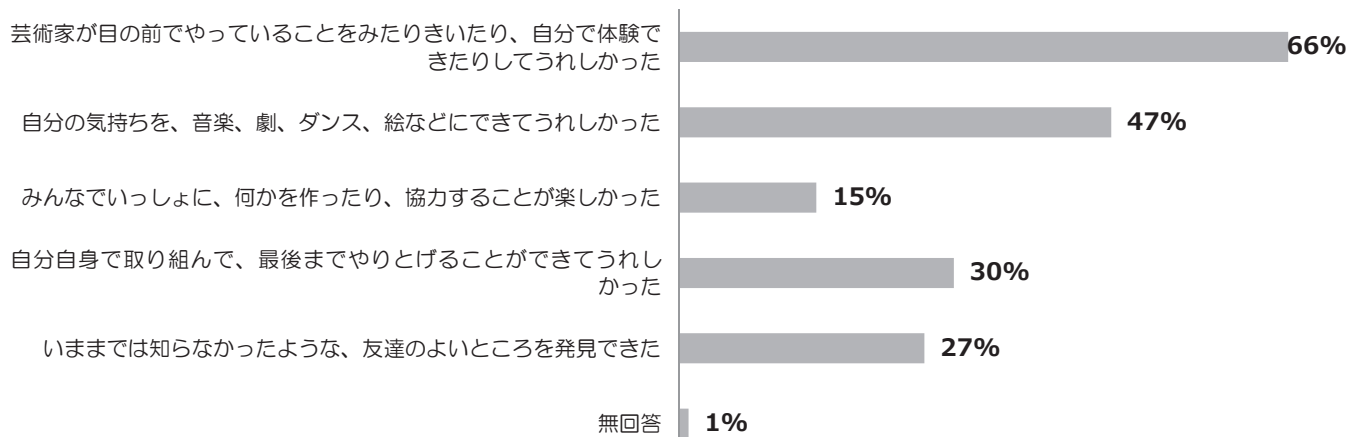
6. 今回の時間に参加してみてどうでしたか



7. このような時間をこれからもまた受けたいと思いますか



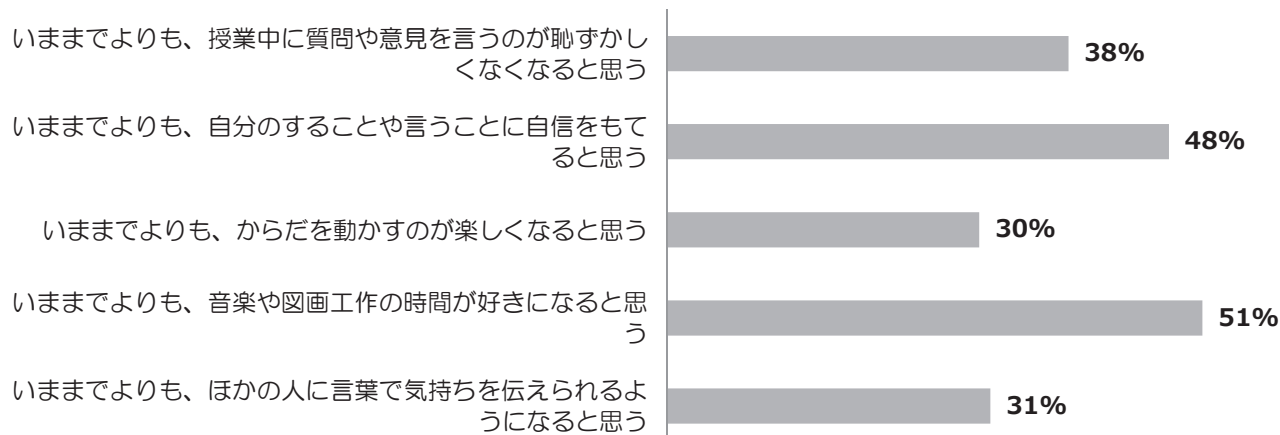
8. このような時間を受けてみて、どのように感じましたか



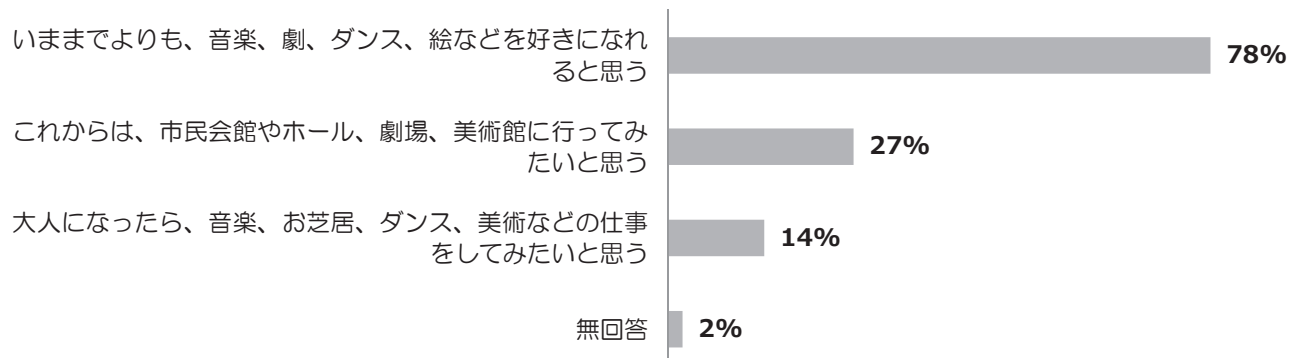
—児童自由記述—（抜粋）

- ・(女の子)：音楽を聴いているとき、目をつぶるとどんだんいろいろ物が見えてきたり、楽しかった。
- ・(男の子)：えをかいてじぶんでそうぞうするのがすごかったのしかった。
- ・(女の子)：じぶんのことをよくしれたと思う。
- ・(男の子)：いつもはずかしくてはつげんできないけどやりやすかった。
- ・(女の子)：今日はクイズに答えがないと知りびっくりしました。でもそれは人それぞれで答えがちがうからと思いました。また、こういうきかいがあるといいと思いました。

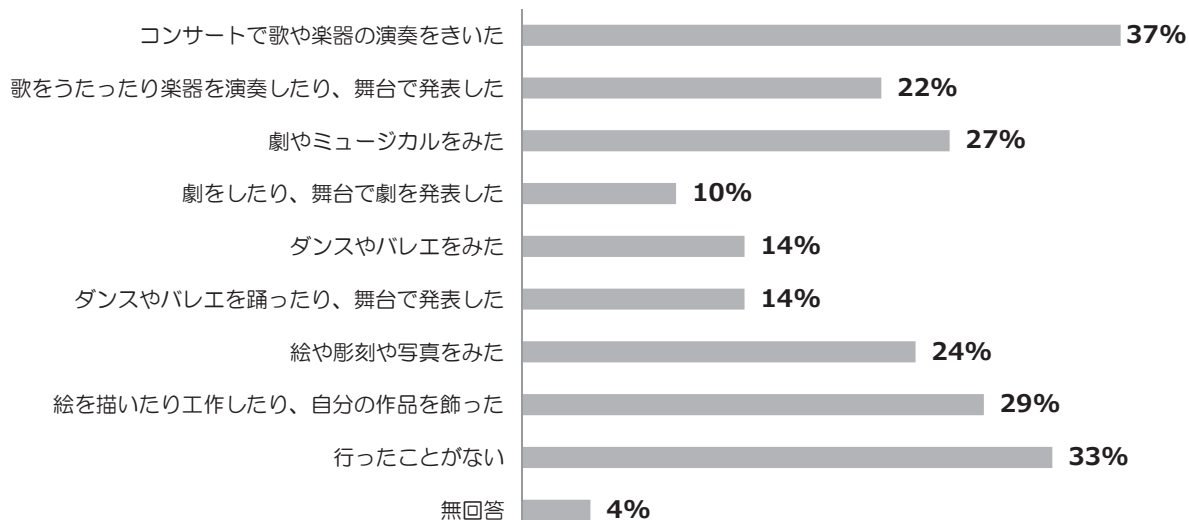
9. このような時間がまたあると、どのようになると思いますか



10. このような時間がまたあると、音楽、劇、ダンス、絵などについてどのように感じると思いますか



11. 市民会館やホール、劇場、美術館などで、みたり、きいたり参加したことがあるもの



●豊田市(愛知県)

参加館 実施データ

実施団体	公益財団法人豊田市文化振興財団		
実施ホール	豊田市民文化会館		
担当者	原田秀樹、児嶋界人、永坂正和、森哲也		
派遣アーティスト	岩崎正裕	アシスタント	佐々木淳子(2・3回目派遣)
1回目派遣の内容			
演劇ワークショップ実施小学校への下見			
インリーチ (参加対象) 市内小学校教諭・市職員・財団職員・地元表現者、(参加人数) 26名			
(日 時) 平成25年8月19日(月) 19:00~21:00			
(会 場) 豊田市民ギャラリー			
打合せ①② (内 容) 学校下見の振り返り、派遣2・3回目の一般ワークショップ内容について 今後のスケジュール調整及び進め方について			
2回目派遣の内容			
豊田市立明和小学校へのアウトリーチ			
(日 時) 1回目(11月19日(火) 13:50~15:20) / 2回目(11月20日(水) 9:50~11:20)			
(対 象) 1年生~6年生(参加人数) 21名(会 場) 集会室			
舞台芸術人材育成事業とよた演劇アカデミーでのワークショップ			
(日 時) 11月19日(火) 19:00~21:00(対 象) 現役受講生および修了生			
(参加人数) 16名(会 場) 朝日丘交流館多目的ホール			
打合せ (内 容) 今後のスケジュール調整及び進め方について			
3回目派遣の内容			
豊田市立中山小学校へのアウトリーチ			
(日 時) 5年1組(2月12日(水) 13:50~15:20) / 5年3組(2月14日(木) 10:50~12:20)			
5年2組(2月14日(木) 13:50~15:20)			
(参加人数) 1組32名・2組30名・3組31名(会 場) 体育館			
地元表現者によるワークショップ			
(日 時) 2月12日(水) 19:00~21:00(対 象) とよた演劇アカデミー修了生・地元表現者・財団職員			
(参加人数) 18名(会 場) 朝日丘交流館 多目的ホール			
振り返り(内 容) 地元表現者によるワークショップについてファシリテーターより内容・ねらいの説明			
派遣アーティストによる講評と今後の研鑽方法について			
演劇ワークショップの事例紹介			
(内 容) DVD上映による事例紹介およびコーディネーターについてのディスカッション			
総括 (内 容) 本事業を振り返り、検証と課題を共有し今後へつなげる			

1~3回目派遣のスケジュール

	1回目		2回目		3回目		
	8月19日(月)	20日(火)	11月19日(火)	20日(水)	2月12日(水)	13日(木)	14日(金)
9:00							
10:00			市駅出発	明和小WS②			中山小WS②
11:00		中山小下見		(90分)			(90分)
12:00	ホール出発	中山小出発	学校着(昼食)	明和小出発	市駅出発		昼食
13:00	明和小下見	昼食	打合せ	昼食		ホール集合	
14:00	明和小出発	振り返り	明和小WS①	振り返り	中山小WS①	振り返り	中山小WS③
15:00	休憩	打合せ②	(90分)	打合せ	(90分)	(120分)	(90分)
16:00	振り返り		明和小出発		中山小出発	事例紹介	振り返り
17:00	打合せ①	解散	休憩	解散	夕食	(120分)	総括
18:00	休憩		打合せ				解散
19:00	インリーチ		アカデミーWS		表現者WS		
20:00	(120分)						
21:00							
22:00							

●この事業への参加理由

この事業を通じ、将来の地域を担う子どもたちに、アートの力が、生きる力を育み、人間的な成長を促す一助になることを学校や行政、市内の文化関係者に紹介し、本市における文化芸術の役割を確立するモデル事業とすることを参加目的とします。

併せて良質な演劇ワークショップを実施するアーティストを学校等に紹介するとともに、担当職員のアウトリーチ実施に関するスキルアップとアーティストらとのネットワークも構築します。

●今回のプログラムの目的と成果

今回、過疎に直面する山村地域の小学校と新興住宅地域という違った環境の小学校2校で実施できたことで、さまざまな視点から演劇ワークショップについて検証することができました。実施校からは「来年も是非参加したい」との声もいただきました。

将来、地元表現者の中から演劇ワークショップのファシリテーターが現れることを望み、まずはその必要性を実体験していただくためこの事業にご参加いただきました。派遣アーティストから、ワークショップのテクニックを学ぶというよりは、それぞれの演劇観を研鑽するため、作品作りに挑戦すべきではないかという意見をいただきました。それを踏まえて来年度以降も協働で研修していきます。

●この事業全体を振り返って

この事業を行ううえで、地元表現者の理解を得ながらこの事業を積み上げていく作業は、非常に不安で手探りな状況であったため、スムーズな滑り出しではありませんでした。しかし、会を重ねるごとに目的や意味などを積み上げることができました。

また、アーティスト・子どもたち・先生・一般参加者などが演劇と幸せな出会いをするためには、コーディネートするということがいかに重要かということに改めて気付きました。今回の事業で得た成果と課題を他の職員とも共有し、より一層この地域のために精進していきたいと地元表現者、職員の双方に意識が芽生えました。

さらに派遣アーティストの岩崎さんには、我々と一緒になって一つ一つの事例に向き合っていたいただいた結果、その過程で気づきや熟慮すべきことがわかるようになり、本事業の目的を達することができました。

●今後の事業展開

平成27年度より豊田市との共催にて文化活動者派遣事業を開始します。そのプログラムの一つに演劇ワークショップを組み込み、小学校へ運べる取り組みをします。

地元表現者と引き続き打ち合わせや研修会を重ねながら、3年後を目途に学校へワークショップが運べるようにしていく予定です。

岩崎 正裕インタビュー

平成26年2月13日 豊田にて

■小学校でのワークショップ

全学年で行うワークショップは、あまり経験がないので1年生の理解度がどの程度なのかがわかりづらく、込み入ったルールのもは行わない方向で考えました。簡単に言うと、ルールの制約の高くないもので、生徒の声を拾いながら進行するプログラムを実施しました。例えば、1人1人が発した言葉から詩を作ってそれを読む。その後、動きをつけていくようなもの。これなら高学年が低学年を支えるような取り組みが可能であると思いました。単学年の場合は、5年生という少し思春期に入りかけている子どもたちなので、ルールをつくとルール崩しをする子もいます。それをどう受け止められるかということがポイントです。5年生で実施した1音詩のプログラムは、学校の中でもヒエラルキーがあって、誰かが誰かに指図をする構図がある場合、人が人に指図をせず自分からものを伝えていくということがベーシックにできるのがこのプログラムだと考えています。誰かの目的をみんなで達成するのではなく、それぞれの目的が変わっていくのだけれど、全体で何かを成し遂げたという達成感があるのは、このプログラムのメリットだと思います。人が人を支配しないことが重要なポイントです。学校のカリキュラムの中でこういう目的のものは、少ないのかもしれませんが。演劇に優劣がないように全員がフラットな状態で臨めることができるプログラムを単学年では実施しました。



■公共ホールと地元表現者

ホールは地元の表現者を掘り起こすミッションがあると思います。最初は、それが難しいので遠隔地から表現者を招くところからスタートしているところも多いと思います。必ず、各地にキーになる表現者、地元に着着を持った表現者がいると思います。東京や大阪のような都心部にしか演劇が根づかないというジレンマを持っていて、このジレンマに苦しみながら地域で作品をつくっている表現者は、とてもいい仕事をされます。例えば、ホール職員と私を繋いでくれたり、私が地域に入っていくときに見えていないところをホールの新人職員にアドバイスしてあげたりして現場がスムーズに進行するように尽力している。地域で活動する表現者のある種のプライドのようなものははっきりあるところは、そうやってうまくいきます。そういう人達は、他地域から来た表現者にとってもオープンで、外部の表現者と対等な立場になったときにとっても上手くいきますが、どうぞ勝手にと外部の人に閉ざしている地域は上手いかなと思います。公共ホールは、商業的な成功を目指さない表現者、演劇を探求する表現者の受け皿としての役割があり、人材の新陳代謝を図るためにもワークショップやアウトリーチなどの人材育成事業にも力を入れる。また、個別で活動している孤独な表現者が立ち寄って悩みを共有できる場という意味でも公共ホールの役割は重要です。私の関わっている公共ホールでは、ワークショップ研究会を立ち上げ地元の表現者が参加しています。経験値の高い演出家を実施する学校でのワークショップを見学後にフィードバックを行ったりしています。学校からホールに依頼があり出向く表現者が決まります。表現者が変わるとワークショップの軸まで変わってしまう。これでは、学校が戸惑って当然です。それを防ぐためにも研究会全体でワークショップの意義を考え、共通認識を持って現場に出られる環境が必要だと思います。ホールの担当者は、自分のホールや事業が社会的役割を担っていると認識できているか、社会の局面の中で演劇が入っていくことで共感あるいは、問題解決ができる可能性を信じているか。信じていない人は、ちぐはぐな仕事になっているのではないかと考えています。



■豊田市について

まずは、表現者が個々に作品をつくるべきだと思います。確固とした作品を発信することで人材が育ちます。地元表現者が今後つくっていくアウトリーチプログラムには、必ず彼らの作品性が反映されます。表現活動での発見がプログラムの基盤となるべきです。アウトリーチだけでは、表現者は疲弊してしまうでしょう。将来を見据えて、作品づくりとアウトリーチ活動の両輪で進めていくことがとても重要だと考えます。地元表現者がつくった作品を上演する機会をホールが提供する必要があります。豊田を活動拠点であると自他共に認める表現者が育ち、アウトリーチ活動を展開することが町の発展に繋がるのではないのでしょうか。アウトリーチを行う意志のある表現者は、演劇に救われた経験があるからこそ、一人ひとりの参加者と向き合えます。表現者と密接な関係を結んでアウトリーチをコーディネートするホール職員にも同様の体験がないと二人三脚できないのではないのでしょうか。そういった共鳴関係が、次代に続く豊かさを育てていくアウトリーチの根幹となると考えます。

■単学年(5年生1クラス、3、4時限目)アウトリーチの流れ

①「ルールのある遊び」の説明

②シアターゲーム

- ・円になって同じリズムで1人ずつ手拍子を打つ。次にリズムを変える。
- ・1人の子の真似を全員でする。
- ・生まれた月でグループにわかれる。
- ・行ってみたい国でグループにわかれる。

心と体をほぐすゲーム

③色を伝える

6人で1チームをつくり、グループごとに指定された色を表現する。例えば「白」の場合、スキーや雪だるま、雪合戦の風景を1枚の写真のようにつくる。

グループ内で協議をして共通認識をもたないと完成しない。全員が協力したものが見ている人に伝わると達成感がある。

④発声

朝の通学途中に見たものを1人1つずつ発表し、それをボードに書く。これを連続して声の大きさを変えて何通りも読んでみる。

自分の見たものを発表することは、正解も間違いもないので言葉にしやすい。大きな声だけでなくささやくような声も出すので、大きな声が出にくい生徒も参加しやすい。

⑤1音詩

5人または6人のグループにわかれて、1人1文字「あ」、「り」など自分の好きなように1文字を言う。5人グループとすると「あ」「り」「が」「と」「う」、「ありがとう」や「あ」「り」「が」「い」「る」、「ありがたい」などの文章ができる。全員で1文字から単語や文章をつくり、できた言葉を全員で発表し、そろったら全員でその場でジャンプして終了。

誰かが誰かに指図することなく自分の意志が全体の達成感につながるプログラム。この後、動きを加えたり、言葉を足すなど広がりを持たせることもできる。

—学校アンケート（豊田市）—

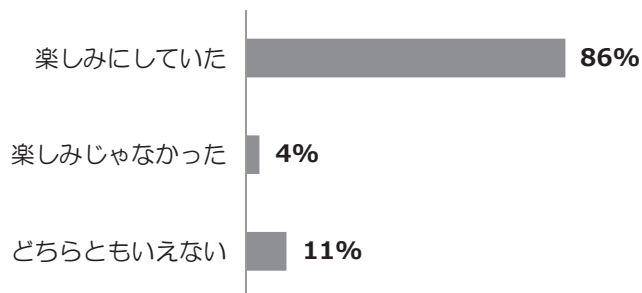
アウトリーチを実施した小学5年生3クラスの児童に対し、アンケートを実施した。

【回収状況】児童対象調査・83件
※8～11は複数回答

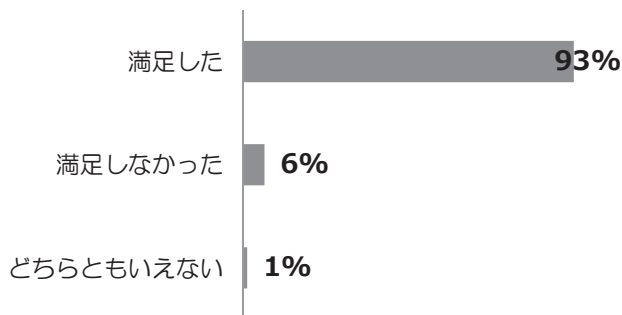
性別
■ 男の子 ■ 女の子



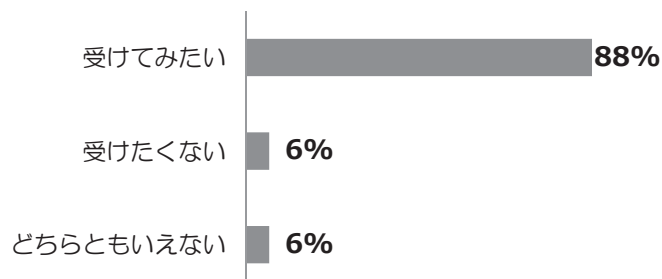
5. 今回の時間を前から楽しみにしていましたか



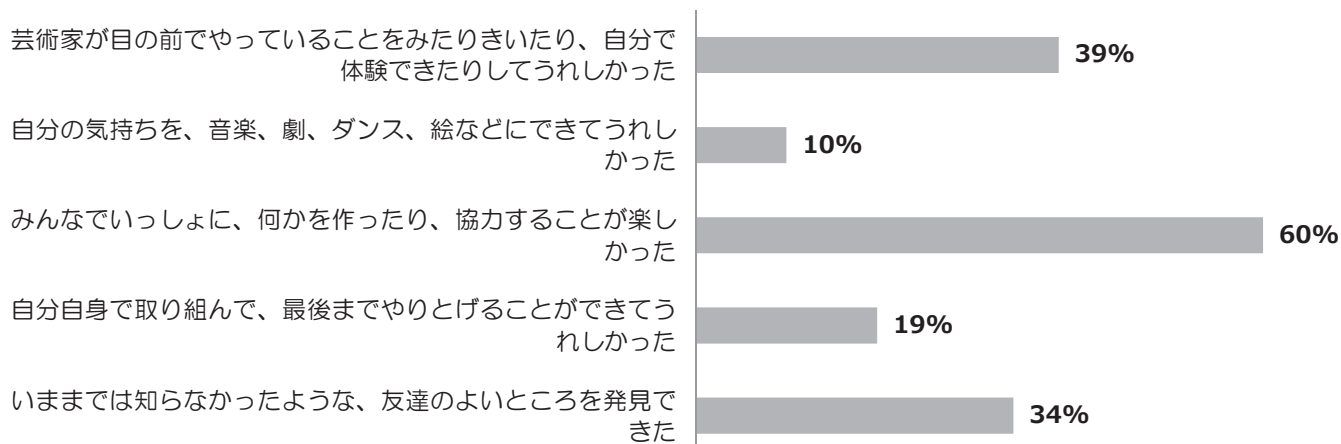
6. 今回の時間に参加してみてどうでしたか



7. このような時間をこれからもまた受けてみたいと思いますか



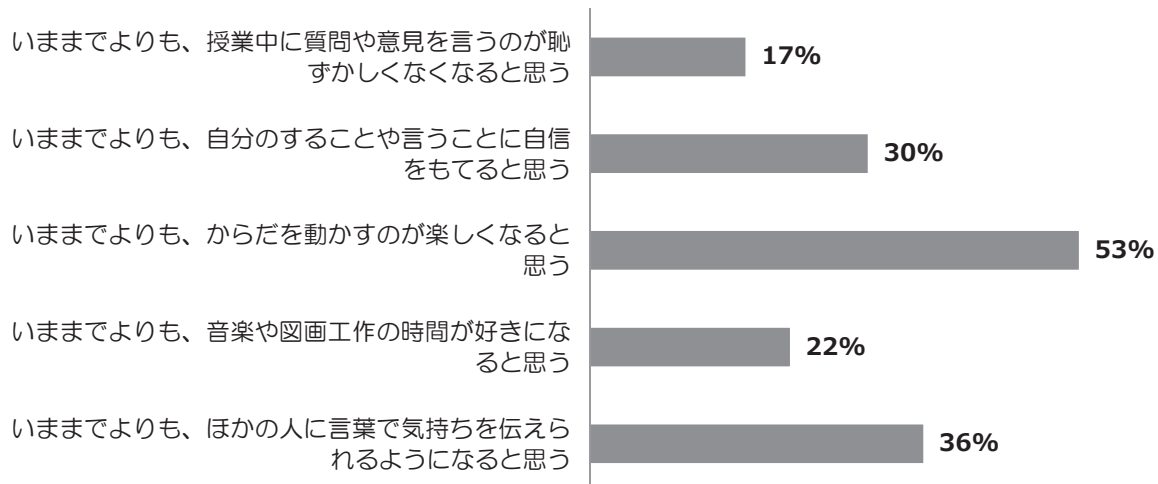
8. このような時間を受けてみて、どのように感じましたか



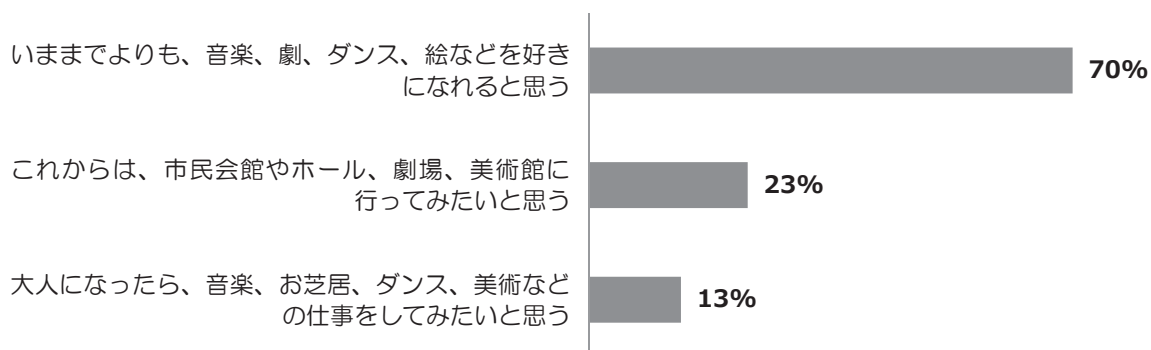
—児童自由記述—（抜粋）

- ・（男の子）：グループで何かテーマにそってなにか作るということがなかったので今日のじゅ業をとうして、みんなでなにかをなしとげることが楽しいし、たっせいかんがあることを知りました。
- ・（女の子）：みんなで協力したり、いきをあわせたりして心がひとつになったことが思い出に残ります。
- ・（女の子）：ジェスチャー伝言ゲームや、絵をあてるゲームが楽しかった。あいてに教えるのが大変だった。
- ・（男の子）：ゲームをとおして友達かんけいが深まった。
- ・（男の子）：友だちの知らないことがわかった。
- ・（女の子）：動きでものを伝えることがとってもむずかしかったけどおもしろかったです。

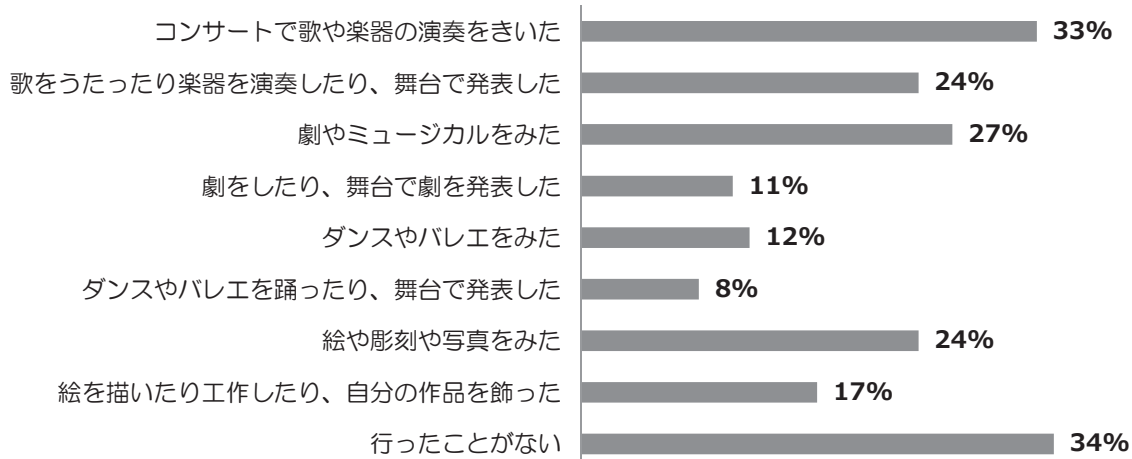
9. このような時間がまたあると、どのようになると思いますか



10. このような時間がまたあると、音楽、劇、ダンス、絵などについてどのように感じると思いますか



11. 市民会館やホール、劇場、美術館などで、みたり、きいたり参加したことがあるもの



●高知市(高知県)

参加館 実施データ

実施団体	公益財団法人高知市文化振興事業団
実施ホール	高知市文化プラザかるぼーと
担当者	吉田剛治、田中希和
派遣アーティスト	多田淳之介、田上 豊
アシスタント	間野律子、二宮未来 (2回目派遣)
1回目派遣の内容 高知市立第六小学校の下見。2回目派遣の内容、スケジュール打ち合わせ(インリーチの対象及び内容、一般公募ワークショップの概要などについて)。	
2回目派遣の内容 高知市立行川中学校の下見。 高知市立第六小学校へのアウトリーチ/ファシリテーター：田上 豊 (日 時) 11月21日(木) 14:10~15:50 (対 象) 4年1組 (参加人数) 32名 (会 場) 音楽室 高知市立行川中学校へのアウトリーチ/ファシリテーター：多田淳之介 (日 時) 11月22日(金) 10:30~12:20 (対 象) 全校生徒(1~3年) (参加人数) 23名 (会 場) 体育館 教育・文化事業関係者向けのインリーチ/ファシリテーター：田上 豊 (日 時) 11月23日(土) 14:00~15:30 (対 象) 文化事業、教育行政関係者(参加人数) 14名 (会 場) 高知市文化プラザかるぼーと 11階軽運動室 地元表現者対象のワークショッププログラム構成指導およびファシリテート指導。 一般公募ワークショップ/ファシリテーター：井上琢己、藤岡武洋 ファシリテートアドバイザー：多田淳之介、田上 豊 (日 時) 11月24日(日) 14:00~15:30 (対 象) 小学4年~6年生 (参加人数) 20名 (会 場) 高知市文化プラザかるぼーと 11階軽運動室	

1~2回目派遣のスケジュール

	1回目	2回目				
	10月15日(火)	11月20日(水)	21日(木)	22日(金)	23日(土)	24日(日)
9:00						
10:00	第六小下見					
11:00				行川中		
12:00				アウトリーチ		
13:00	2回目派遣	行川中下見				
14:00	打ち合わせ		第六小		関係者向け	地元表現者
15:00			アウトリーチ		インリーチ	公募WS
16:00						
17:00						全体フィード
18:00						バック
19:00			地元表現者	地元表現者	地元表現者	
20:00			WS指導	WS指導	WS指導	
21:00						
22:00						

●この事業への参加理由

昨年度、北九州芸術劇場にて開催されましたリージョナルシアター事業に地元表現者 5 名と参加し、他の研修プログラムでは得ることのできない貴重な経験をさせていただきました。この経験を研修に参加できなかった地域の表現者に伝え、協働で地域交流プログラムを進めていこうと考えていた際に今回のモデル事業のご案内をいただき、参加させてもらうこととなりました。

●今回のプログラムの目的と成果

- ・劇場や表現者が、地域に対してどのような社会的役割を持つべきか？
- ・演劇の持つ教育的側面を活かした、地域に繋がるプログラムを継続して行えないか？

最終的な目標は将来の鑑賞者や表現者の育成としても、そこに向かうまでの地域交流プログラムの大切さ（演劇の社会的役割）を、劇場・表現者がそれぞれの立場でしっかり認識することが最初の目的でした。

その上で意識を持った人間が集まり、プログラムの構成を考え、講師の指導を受けてプログラムを創り上げ、ファシリテートの技法を学び、発表するまでが、今回のプログラムの中心となるもので、成果としては十分に果たせたのではないかと考えています。

●この事業全体を振り返って

講師としてお招きした、多田さん・田上さんの学校でのアウトリーチプログラムは、体験したお子さんに対してはもちろんのこと、普段、学校現場での演劇ワークショップを見る機会が限られている高知では、制作者・表現者双方にとって非常に貴重な時間となりました。

また、おふたりの熱心な指導のおかげで、地元表現者との強い繋がりが生まれたことが、事業担当として大変嬉しく思っております。

反省点としては、自身含めてコーディネーターとしての経験を、劇場のスタッフは多く積む必要があると感じています。

●今後の事業展開

来年度は地元表現者のみで地域交流プログラムを実施予定です。その本番に向けて、事業終了後も定期的な勉強会を続けております。

また、今回ご縁のあったアーティストそれぞれのカンパニーの公演も行うよう準備を進めております。

今後も地域創造の研修プログラムには、積極的に参加したいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

多田淳之介インタビュー

平成25年11月25日 高知にて

■中学生とのワークショップ

今回の中学校は、1年生から3年生まで合計21名でしたが下見の際に見えてこない部分もあり、対策が練りづらく感じたので、当日は生徒達同士の組み合わせやチーム分けに気をつけました。すぐに学年を混ぜず、彼らにとっての安全な状態というのはどのあたりだろうかと、まずその様子を見ないと分からないので、最初のチーム分けの時に彼らにとって一番楽であろう学年で分けたらこのチームはいけるなと思いました。次に学年を混ぜたらどうなるんだろう？ヒエラルキーはあるのか？下級生が上級生に何も言えない状態だったらどうしようかと気にしました。外れたりする子とか離脱する可能性が結構高いと思っていましたが、進むにつれ思いの外、全然できるのでいける、いけると思いました。思春期をちょっとこじらせている子もいたけど、皆純粋な感じでした。後半は、3年生が率先して椅子の役になり1年生がそれに座る役になっていて、ちゃんと上級生が下級生を支えている姿が感動的でした。フィードバックのときに先生方もそこをしっかりと見られていて、学年を超えて共同作業している、接触することを抵抗なくやっているということを実感深く話されていました。1回限りではもったいないので、例えば定期的に1カ月に1回のワークショップを1年間通してやる事ができれば、彼らはもっと自分に自信を持つと思います。2回目は「久しぶり。」から会えるので彼らとの距離感もぐっと近くなって、簡単な演出をするプログラムもできる。3回目以降は、体の形や声だけで会話をする非言語コミュニケーションだったり、彼らが自分で選択して、相手に反応することでコミュニケーションをとり続けられるということを楽しんでもらえるといいですね。自分で決めて、自分の選択でその場にいるという体験をさせてあげたいです。そこにいるだけで十分意味があって、価値があって、という体験です。12回目は公演もできると思います。彼らが考えた演劇の上演です。みんなで喧々囂々しながら、コミュニケーションをとって一つの物を作ってもらいたいです。



■高知市について

4月の全体研修会でホール担当者の吉田さんと高知の表現者に会った時に、面白そうだな、何だろうこの人たちの情熱は、何だろうこの団結力かと思ひ、すでにホールとアーティストの信頼関係はできていると思いました。かるぽーと以外に、蛸倉という倉を改装した劇場を地元表現者を中心に運営していて、自分達の演劇活動だけでなく、高知の演劇界のことを皆で考えて支え合っているから、アウトリーチにもずっと入ってこられる。色々な所に行くと、アウトリーチの価値をアーティストが分かってくれないなどの課題がある中でそれが全くない。数多くのホールが地元の表現者を育てたいと言うところ吉田さんの口から「育てたい」とは出てこず、仕事をするパートナーとして「一緒にやる」という言い方をされますよね。強い信頼関係を感じました。劇場もそうだし、劇団のアーティスト達も自分達の後の世代のことを考えて活動していて、上の世代から受けたものを自分達の世代でよりよくして次の世代に繋げるという意識が強いなと思います。それを考えることは難しいですからね。僕たちが呼ばれていく所は、その場所に何も無いわけではないのですが、きっかけが少なかったり、アーティストがいないなど、僕が帰った後にどうなるのかが課題だと思っています。いかに何を残すかということを考えてやりますが、高知の場合は僕が来ても帰っても、彼らはずっとやっているだろうと思うので、その感覚がよその地域と違いますね。高知に東京や大阪からいろんなアーティストが来たときに、彼らと一緒に何かをするということに凄く意識的で、外の人に対して完全に信頼関係をつくりに来ている感じがします。高知の人達は山があるから孤立して陸の孤島だと言いますが、それが良い方向に働いていて、自分たちでやるんだ、他の地域や場所に頼らずに自分達でやっていくという歴史がある。それで地元の力が強くなり鍛えられている気がしますね。



■中学校アウトリーチの基本的な流れ

①演出の話、プログラムの説明、コミュニケーションとは何かの話。

②長縄跳び

アシスタントの俳優が縄跳びをジェスチャーだけでまわす。架空の縄を見て生徒1人ずつが縄跳びに入り5回飛んだら縄から抜ける。

見えない縄を見て一つのゲームを行うことで共通認識とルールを理解する。

③円になってコミュニケーションをとる

全員でひとつの円になり演出家の問いかけ「1年生」「2年生」「3年生」「女子」「男子」「メガネかけてる人」「コンタクトの人」「A型」「B型」「O型」「AB型」などに「はい」と言って手を挙げる。次に誰とも同時にならないように声を出さず1人ずつ座り全員が座れたら、今度は1人ずつ立ちあがる。次に声を出さずに1人が座ると全員が座る。1人が立つと全員が立つ。学年でチームになり1人ずつ立つ、座るのゲームをやる。最初に立つ人、座る人(キーマン)をこの日の誕生日に一番近い人がやる。次にキーマンを話し合いで決め、誰がキーマンだったかを見ている他学年が当てる。

問いかけに「はい」と答える段階で声が出せるかどうかを見極めることができる。立つ、座るのチーム別では1回目のキーマンを誕生日で決めるため必然性にまかせ、2回目のときは、自分たちで決めるという自主性を必要とさせている。ミッションをチームで共有し、実行する体験。

④歩く中でのゲーム

1人1人が自由に歩く。人の後ろについて行かない。横並びにならない。スペースを意識して空間が均等になるように歩く。「ゴー」の号令で歩き出す。「ストップ」の号令で止まる。「クラップ」の号令で1回手を叩く。「ジャンプ」の号令でその場でジャンプする。「ゆか」の号令で床にタッチする。「まわって」の号令でその場で立ったまま1回転する。これに慣れたら「ゴー」と「ストップ」の意味を逆にする。次に「クラップ」と「ジャンプ」の意味を逆にする。「ゆか」と「まわって」も逆にする。指定された人数で言われたもの「美術室」「音楽室」などをつくる。

体と頭と気持ちをほぐすためのゲームと短時間での創作は、頭と体を同時に動かし学年を超え共同作業を行っている。アイデアをチームで体現し、それを見ている人に伝える体験。

⑤しりとり

4 グループにわかれて1分間で全員が1巡するように「しりとり」をする。

2 回目は、1分間で1回目と同じ「しりとり」を再現する。

3 回目は、自分の位置を1つづらして隣の人の役になって同じ「しりとり」の再現をする。

普通のしりとりと同じルールだが、隣の人を再現することで自然とお芝居をしている状態と同じになる。テキストやキャストを必要としない上演の形になっている。自分、他人を演じることで人間の固有性を体験する。

—学校アンケート（高知市 中学校）—

アウトリーチを実施した中学校の生徒（全校 1～3 年生・23 人）に対し、アンケートを実施した。

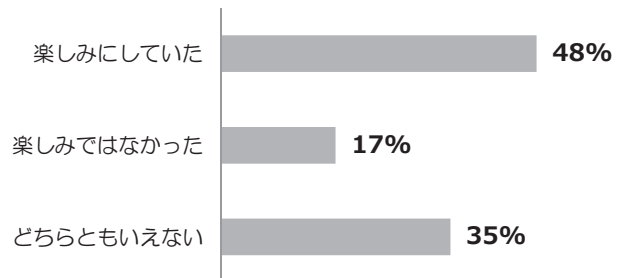
【回収状況】児童対象調査・23 件

※ 8～11 は複数回答

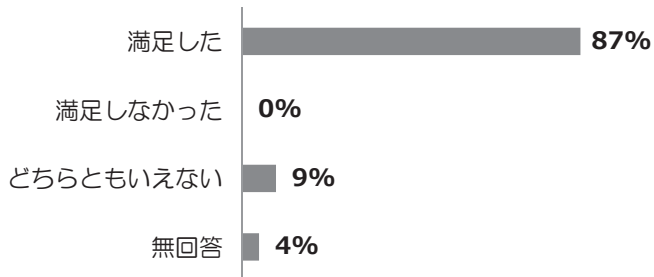
性別
■ 男性 ■ 女性

57% 43%

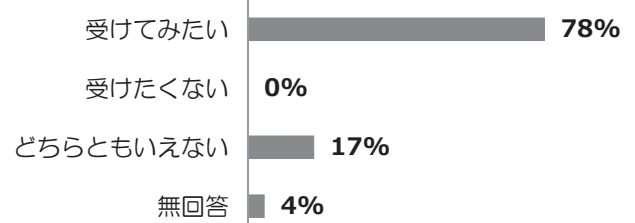
5. 今回の時間を前から楽しみにしていましたか



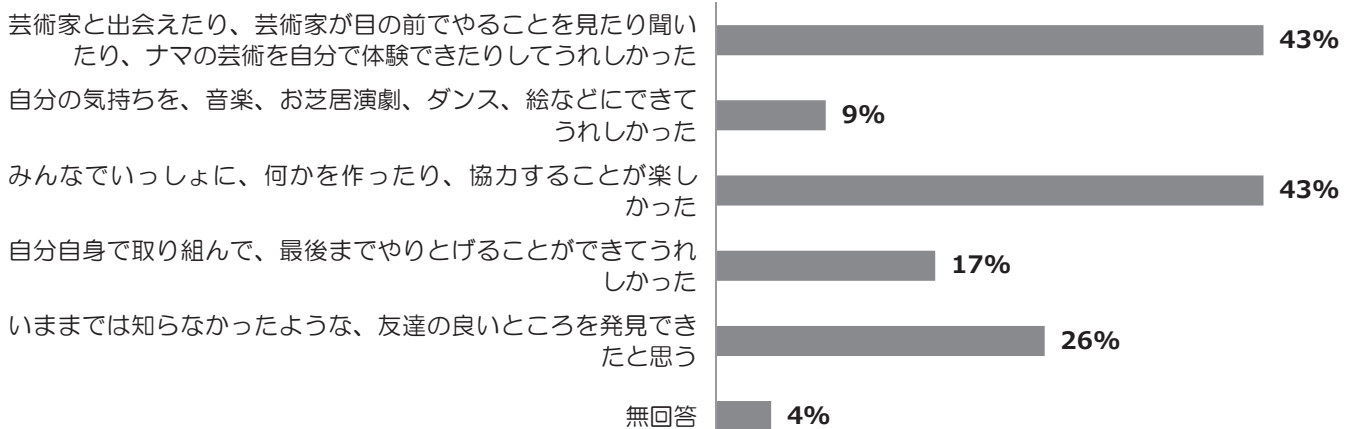
6. 今回の時間に参加してみてどうでしたか



7. このような時間をこれからもまた受けてみたいと思いますか



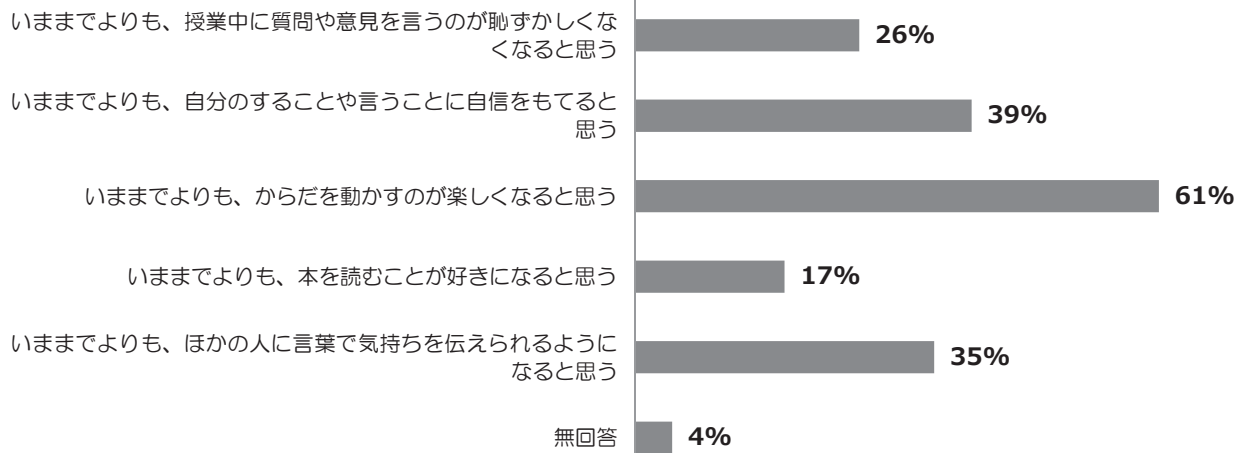
8. このような時間を受けてみて、どのように感じましたか



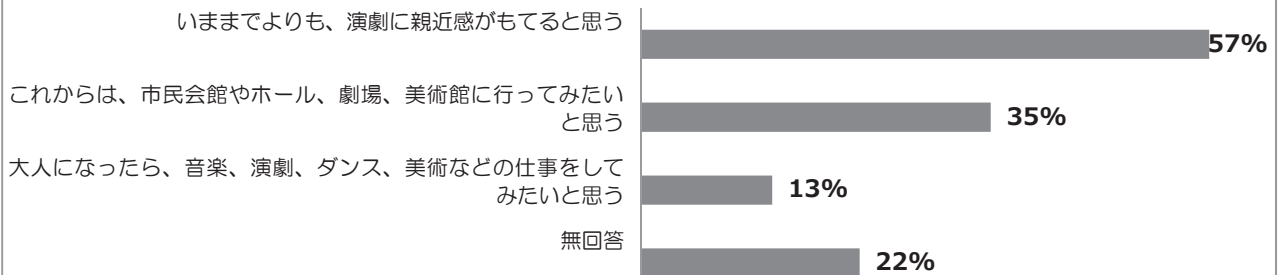
—生徒の自由記述—

- ・(中1男子)：チームで音楽室などをつくるのがとてもつらかったりしたけれどとても楽しかった。いわれたことを体の動きとかで表すということはむずかしいということがわかった。
- ・(中1女子)：ちょっと頭を使ったし、友達とももっと仲良くなれたと思う。だされたお題を人を使ってみんなに分かるようにするのがよかった。
- ・(中2男子)：思っていたよりたのしかったし仲が深まった。
- ・(中2女子)：演劇のことは好きだったけれど、いままでよりも親近感をもてるようになった。またみるときにはいままでよりも楽しくおもしろくみることができると思う。
- ・(中3女子)：みんなと楽しい時間が過ごせて嬉しかった。また、こういう活動をしたいと思いました。とても、面白かったです。
- ・(中3男子)：楽しかったよ。またきてや。将来のためにもなったよ。ありがとう。

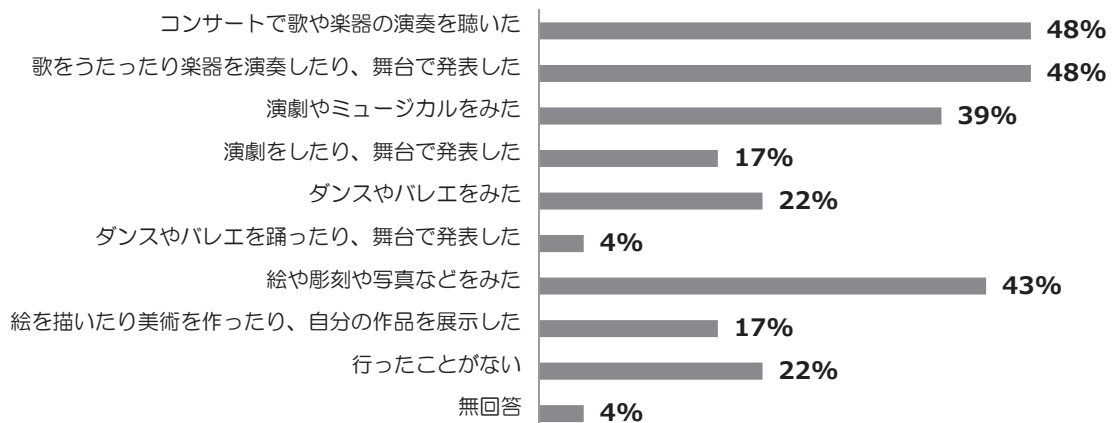
9. このような時間がまたあると、どのようになると思いますか



10. このような時間がまたあると、音楽、劇、ダンス、絵などについてどのように感じると思いますか



11. 市民会館やホール、劇場、美術館などで、みたり、きいたり参加したことがあるもの



田上 豊インタビュー

平成25年12月10日 東京にて

■小学生とのワークショップ

今回のように、テキストを元に創作し発表まで行うプログラムでは、その作り方や発表に至るまでの過程が彼らにとって興味をくすぐれるかどうか肝心です。ちなみに、僕のテキストは3人1組で、2人(A、B)がケンカしている所に、ケンカの内容を忘れさせるほど変な第三者(C)が入ってくる1シーンを使います。そのテキスト自体も数カ所のセリフが穴空きになっていて、その部分に入れるセリフ次第でいろんなバリエーションが出ます。セリフの穴埋め作業で、生徒達はまずクリエイティブシンキング。穴埋めしたテキストを一旦回収し、自分のチームが穴埋めしたテキストを他のチームに配布します。そして、別のチームが書きあげたテキストを使って、なんとか発表まで辿り着かねばならない、ということ初めて伝えます。ここから、演劇的協働作業のオンパレードです。90分で挑むには結構なボリュームなのですが、それでも生徒全員の参加を保障してあげることに努めます。最後の発表まで誰一人脱落させたくない。そんな思いで、ワークショップ中の空気感や生徒の参加具合に気を配りながら丁寧に進めていきます。単にテキストを使用するだけのワークショップではありますが、このプログラムの中には、ワークショップを通して演劇の楽しさを改めて発見して欲しい、また、この時間を通して普段接している友だちの新しい一面に触れて欲しい、といった「再発見」の願いが込められています。後者に関しては、僕は大学時代の悪友を集めて「こいつらのドブの輝きを証明してやる」的な負け犬根性で演出を始めたので、そういったものが影響しているかもしれません。最近では、いつもおとなし目な子や、クラスで浮きがちな子どもほど、新しい一面が見えた、という感想を先生からもらえるようになりました。その感想もさることながら、「再発見」が生徒間を越えて、先生に飛び火していることに嬉しくなります。前者に関しては、演劇の面白さに触れてもらう以前に、生徒にとってはこの場が演劇のプロフェッショナルと出会いの場になっていることが重要です。僕が小学生の時にプロ野球選手の野球教室があって、後に監督をされる西武の伊東選手が1人1人素振りを見せてくれる時間がありました。ただただ優しい眼差しで平等にアドバイスしてくれて、何よりも自分にとってプロ野球選手と言葉を交わした!ということがとても強烈に残ったので、僕はプロ野球選手ではないですが、「演劇のプロだったからこそ楽しめて何かが残った」という感触を残して帰りたいと思うようになりました。それ以来、演劇人として一人一人にどのような言葉を交わすか、どのように声を掛けて行くかということにも重点を置いて、生徒との出会い方こそが「演劇の面白さの入り口」に繋がると信じてやっています。



■アシスタントの役割

アシスタントには、全体の雰囲気と時間配分を見てもらいます。全体の雰囲気の中で「盛り上がり過ぎているな」とか「これ以上、皆が走り出したりすると危険が及ぶ」という時には注意信号を送ってもらいます。学校の場合は、基本的に時間を超せないで、プログラム上で全体を調節するための5分位の余白の時間を作っておきます。それをアシスタントが共有しておくこと、客観的にタイムキープを行ってくれるので、大変助かります。また、うまくできない子の横にびたっつについて、その時にそのアシスタント自身が何か教えようとか、元の輪に戻そうとか、ちゃんとして欲しいみたいな考え方をしていると指導っぽくなくちゃうんです。そういう人が寄ってくると、自分ができてないから寄ってきているというサインとして、生徒の間で広がることがあります。普段、うまくできない子に先生は寄って来ますよね「ちゃんと座って」とか。その寄り方と同じ寄り方しちゃダメなんだよと。「指導」と「軌道修正」を混同しないことです。ただ、アシスタントのキャラクターが強烈な時には、生徒の中に潜んでもキャラが強すぎて浮く人もいるので、キャラクターを見極めてどこに配置するのかを決めています。



■コーディネーターの役割

コーディネーターは、教育現場とアーティストを繋ぐ仕事なので、その双方が協力してワークショップが行えるようにバランスを取ることが求められます。アーティストが行って残したいことと、先生がアーティストにやってもらいたいことの達成度にギャップが出てきた時、アーティスト自身そのギャップを語るのって難しい時があるんです。「それ言い訳なの？」と思われる可能性がある。しかし、コーディネーターの方が客観的な存在として説明すると言葉がずっと先生達に伝わることもある。逆にこれを僕が同じ説明をしても、変な補足をしているという嫌な印象に受け取られることがあって…。そういったことも含めて教育現場のことを熟知し、上手いかなかった現場の経験もあり、アーティストのワークショップの特性を見極め、この双方をうまく出会わせることがコーディネーターの仕事ではないでしょうか。

■小学校アウトリーチの基本的な流れ

①プログラムの説明、注意事項の確認、簡単なクイズ。

プログラムのテーマ「伝える」「演じる」「助け合う」の説明など。

②イスとりゲーム

ランダムに置いてあるイスの空いている1席に鬼を座らせないように全員が工夫するゲーム。

全体で工夫が必要になるため、作戦タイムで全員がコミュニケーションをとり協力しあう状況をつくっている。

③ゾンビ鬼

鬼がゾンビに扮し、タッチされると鬼と同様のゾンビのような動作を真似して、鬼が増殖するゲーム。ゾンビは四つん這いの仰向け状態で前後左右に進む。

体を使い、鬼ごっこと同じルールなので自然と声も出すようになる。かなり心と体を解放させるゲーム。

④テキストをもとに創作

テキストを配布。アシスタント達によるデモンストレーションを2パターン見せる。

これから自分たちがつくる演劇のバリエーションを知る。

⑤テキストの創作

3人1組のチームをつくり、それぞれのチームでテキスト(A4サイズ1枚)の虫食いの部分を埋めて、テキストを仕上げる。

⑥再創作

テキストを回収後、自分たちが作ったテキストとは違う別のチームのテキストを再配布。配役を決め、シーンを稽古して創作をする。

⑦発表

空間のどこを使って発表してもよいので、観客がその場所へ移動して見る。

⑧フィードバック

発表したチームの感想、書いたチームの感想、その後演出家がよかったポイントを話す。

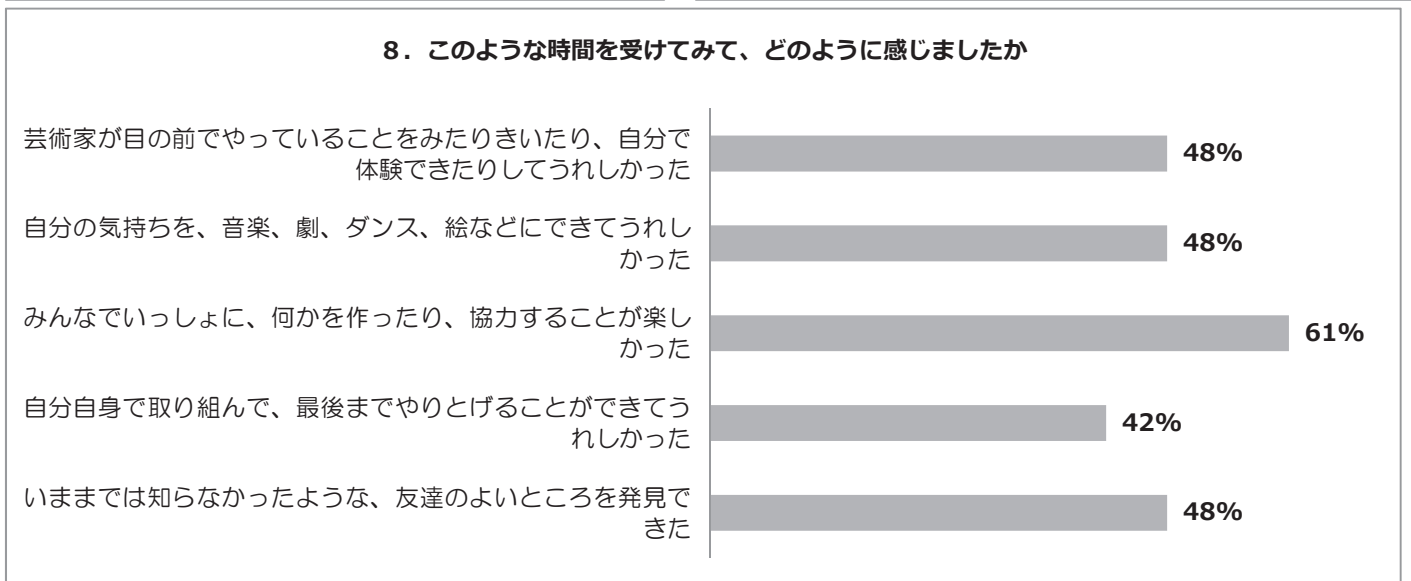
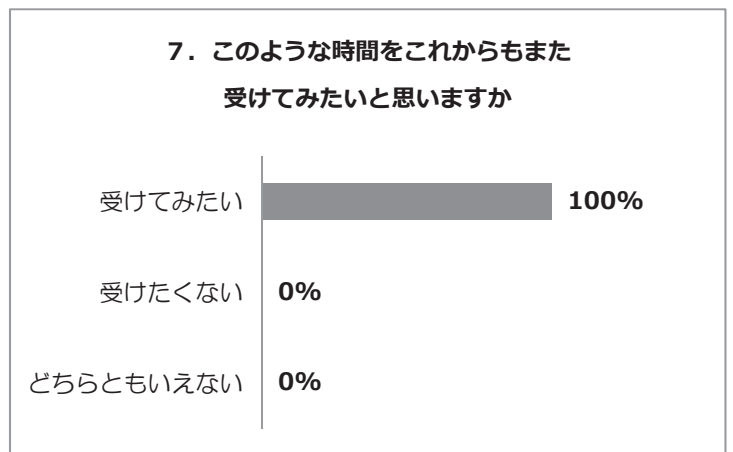
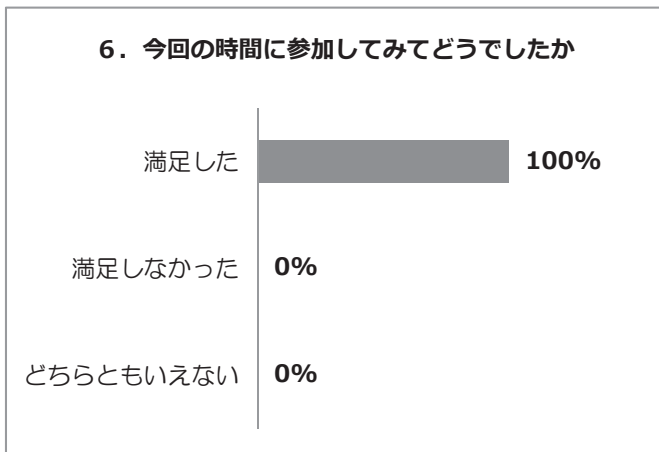
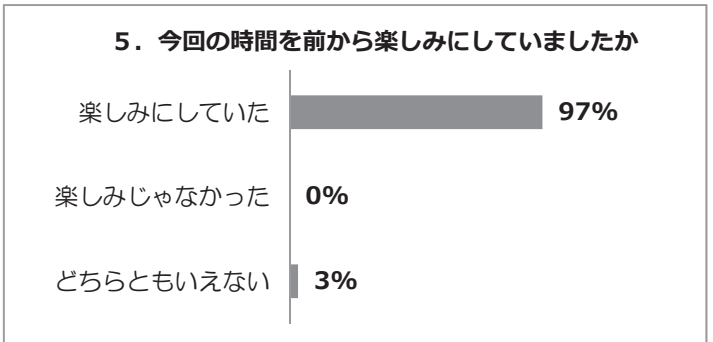
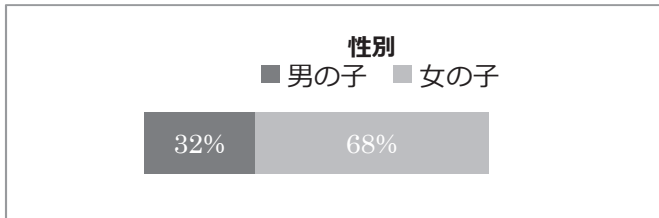
テキストを使用した作品づくりは、まず自分たちで戯曲を完成させ、別のチームがつくった戯曲をキャストイングし稽古をして発表することで、自分たちの戯曲を他者がどのように解釈をしたか、他者の考えたことを自分たちがどのように具現化したのかという別の視点が1つ増える。その部分を踏まえた上で演出家がフィードバックで各作品の良かった点を解説すると子供たちも先生も気づいていない子供たちの良さを再発見できる。

—学校アンケート（高知市 小学校）—

アウトリーチを実施した小学校4年生1クラスの児童
に対し、アンケートを実施した。

【回収状況】児童対象調査…31件

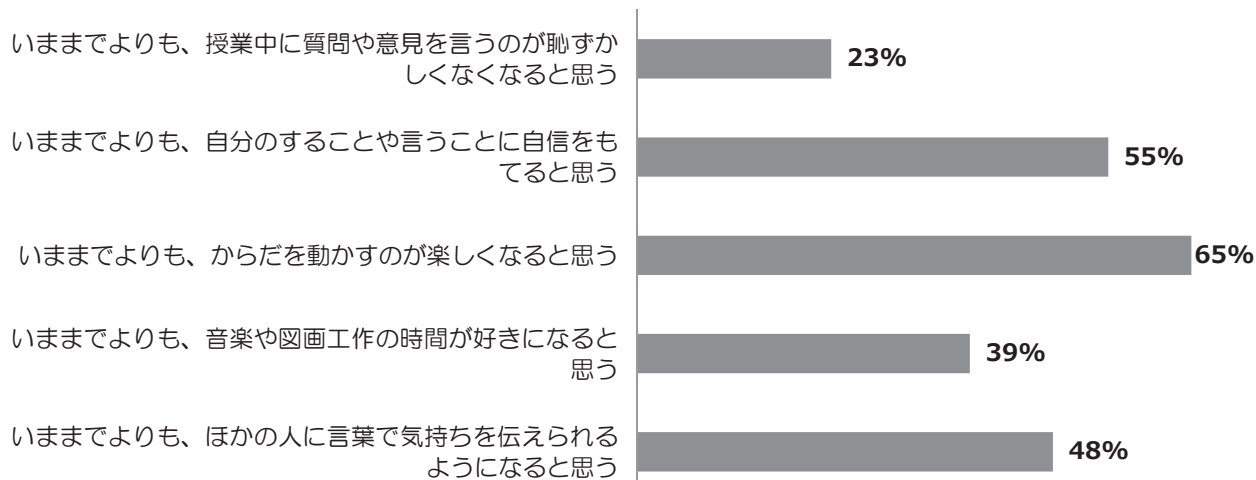
※ 8～11は複数回答



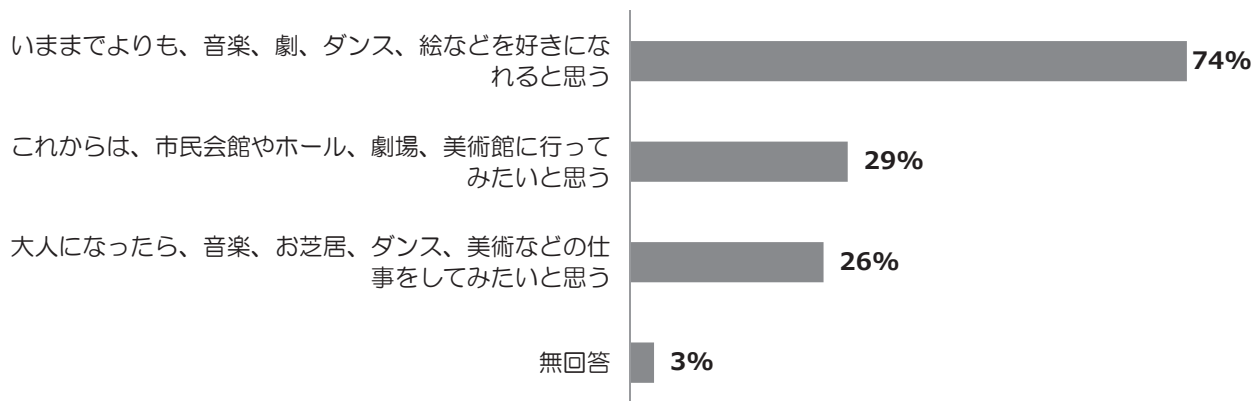
—児童自由記述—（抜粋）

- ・（男の子）：僕はげきがいっそう楽しくなりました。また、コンサートなどに行ってみたいです。面白いげきをみたいです。ゾンビおにごっこがとくに面白かったです。改めてげきの面白さを感じました。
- ・（女の子）：私はこんなにえんげきがおもしろいと思っていなかったの、初めてやってすごくおもしろかったです。またみんなで協力して演劇をしたいです。
- ・（男の子）：いすとおりおになど、今度からもみんなといっしょにしたい。新しい発見ができて良かった。
- ・（女の子）：私は、みんなに伝えることが楽しくなったような気がしました
- ・（男の子）：新しいゲームやとり組みができてとてもうれしかった。げきをしたりできたのがうれしかった。ゲームなどがとても楽しかった。
- ・（女の子）：伝える・えんじる・助け合うの言葉がじゅ業に生かされているので思い出にのこりました。

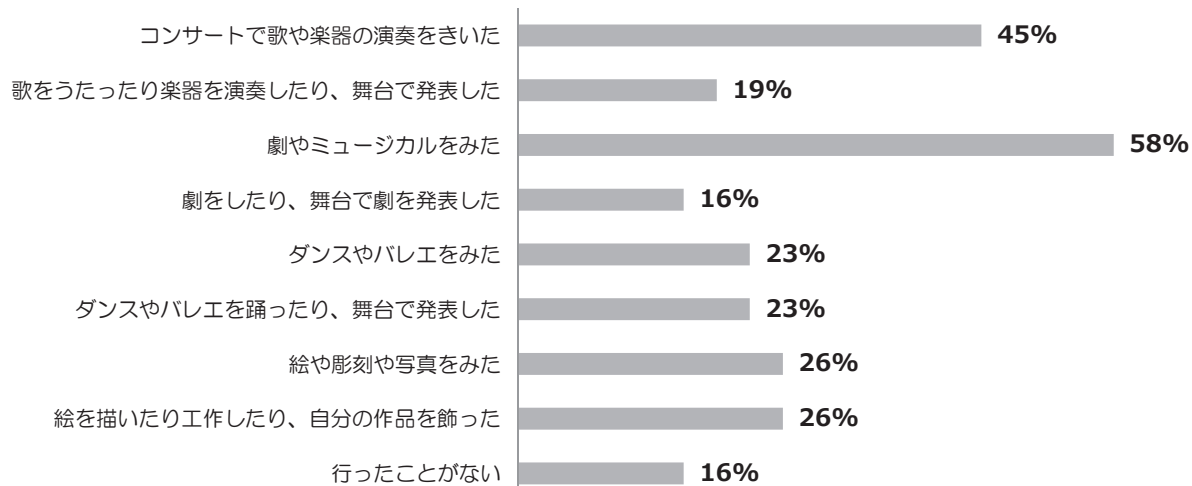
9. このような時間がまたあると、どのようになると思いますか



10. このような時間がまたあると、音楽、劇、ダンス、絵などについてどのように感じると思いますか



11. 市民会館やホール、劇場、美術館などで、みたり、きいたり参加したことがあるもの



平成25年度に本事業でアウトリーチを実施した全5校(小学校4校、中学校1校)の児童生徒に対し、アンケートを実施した。

【調査方法】

- ・調査票の配布:実施団体担当者から教員に必要部数を手渡し、教員から参加した児童生徒に直接配布。
- ・調査票の回収:実施団体担当者が後日調査票を回収し、(財)地域創造へ返送した。
- ・調査実施期間:2013年8月~2014年2月
- ・回収状況:各学校アンケートページに記載

Oshiete anata-no-koto

あなたのこと、
今回の時間のことを、
おしえてください。

1 あなたの学年を
教えてください。

() あなたの学年をここに書いてください。

- (1) 小学1年生
- (2) 小学2年生
- (3) 小学3年生
- (4) 小学4年生
- (5) 小学5年生
- (6) 小学6年生



3

学校にいるとき、
どんなことを
している時間が、
いちばん楽しかったですか？

() どの時間かここに書いてください。

- (1) 読書や図鑑を見る時間
- (2) 絵や図や算数の時間
- (3) 体の時間や理科の時間
- (4) お話の時間や外国語の時間
- (5) 運動会やその他の学校の時間
- (6) その他
- (7) その他 ()



2 あなたは
男の子ですか、
女の子ですか？

() 男の子か女の子かここに書いてください。

- (1) 男の子
- (2) 女の子



4

次の中から、
習いごと、
クラブなど、
やっていることは
ありますか？

() どの時間かここに書いてください。

- (1) 音楽やダンス、楽器や歌、演劇、お笑い
- (2) 剣道や柔道、空手
- (3) 水泳や陸上、サッカー、野球
- (4) 絵や書道、習字、折り紙、粘土、工作
- (5) その他 ()



5 今回の時間を、
前から楽しみに
していましたか？

() どの時間かここに書いてください。

- (1) 楽しかったです
- (2) 楽しかったです
- (3) 楽しかったです

6 今回の時間に
参加してみても、
いいですか？

() どの時間かここに書いてください。

- (1) 参加したい(楽しそうです、参加してみたい、参加してみたい)
- (2) 参加したくない(楽しそうではない、参加してみたい、参加してみたい)
- (3) その他



いいことか悪いことか？

7 1つのおもしろい時間を、
これからもう一度
受けてみたいと
思いますか？

() どの時間かここに書いてください。

- (1) 参加したい
- (2) 参加したい
- (3) 参加したい

いいことか悪いことか？

8 1つのおもしろい時間を受けても、
1つのおもしろい時間を
受けても、
いいことか悪いことか？

() どの時間かここに書いてください。

- (1) 参加したい(楽しそうです、参加してみたい、参加してみたい)
- (2) 参加したくない(楽しそうではない、参加してみたい、参加してみたい)
- (3) その他
- (4) 参加したい(楽しそうです、参加してみたい、参加してみたい)
- (5) 参加したい(楽しそうです、参加してみたい、参加してみたい)

Oshiete
anata-no-koto

10

10のような時間が
またあると、
音楽、劇、ダンス、
絵などについて、
どのものに感じるよ
うに思いますか。

この質問の答えは、10のなかの番号を○で囲んでください。

- (1) 10のような時、音楽、劇、ダンス、絵などについて、どのものに感じるように思いますか。
- (2) 10のような時、音楽、劇、ダンス、絵などについて、どのものに感じるように思いますか。
- (3) 10のような時、音楽、劇、ダンス、絵などについて、どのものに感じるように思いますか。



9

9のような時間がまたあると、
9のようなことになると思いますか。

この質問の答えは、9のなかの番号を○で囲んでください。

- (1) 9のような時、音楽、劇、ダンス、絵などについて、どのものに感じるように思いますか。
- (2) 9のような時、音楽、劇、ダンス、絵などについて、どのものに感じるように思いますか。
- (3) 9のような時、音楽、劇、ダンス、絵などについて、どのものに感じるように思いますか。
- (4) 9のような時、音楽、劇、ダンス、絵などについて、どのものに感じるように思いますか。
- (5) 9のような時、音楽、劇、ダンス、絵などについて、どのものに感じるように思いますか。



11

市民会館やホール、
劇場、美術館などで、
みたり、きいたり、
参加したことがあるものは、
()のなかの番号を
○で囲んでください。

この質問の答えは、

- (1) 市民会館やホール、劇場、美術館などで、みたり、きいたり、参加したことがあるものは、()のなかの番号を○で囲んでください。
- (2) 市民会館やホール、劇場、美術館などで、みたり、きいたり、参加したことがあるものは、()のなかの番号を○で囲んでください。
- (3) 市民会館やホール、劇場、美術館などで、みたり、きいたり、参加したことがあるものは、()のなかの番号を○で囲んでください。
- (4) 市民会館やホール、劇場、美術館などで、みたり、きいたり、参加したことがあるものは、()のなかの番号を○で囲んでください。
- (5) 市民会館やホール、劇場、美術館などで、みたり、きいたり、参加したことがあるものは、()のなかの番号を○で囲んでください。
- (6) 市民会館やホール、劇場、美術館などで、みたり、きいたり、参加したことがあるものは、()のなかの番号を○で囲んでください。
- (7) 市民会館やホール、劇場、美術館などで、みたり、きいたり、参加したことがあるものは、()のなかの番号を○で囲んでください。
- (8) 市民会館やホール、劇場、美術館などで、みたり、きいたり、参加したことがあるものは、()のなかの番号を○で囲んでください。
- (9) 市民会館やホール、劇場、美術館などで、みたり、きいたり、参加したことがあるものは、()のなかの番号を○で囲んでください。



12

今回の時間で、
感じたことや、
思い出し難いことなどは、
自由に書いてください。

13

市民会館やホール、
劇場、美術館といった場所について、
「いいことばかり」と思ったり、
感じていることがあるらば、
自由に書いてください。



協力してくれて、ありがとうございました。

***** あなたのこと、今回の時間のことを、教えて下さい。**

- 問1. あなたの学年を教えてください。
1. 中学1年生
 2. 中学2年生
 3. 中学3年生
- 問2. あなたの性別を教えてください。
1. 男性
 2. 女性
- 問3. 学校にいるとき、どんなことをしている時間が楽しいですか。次のなかから選んでください。(〇はいくつでもかまいません)
1. 授業で勉強する時間
 2. 休み時間や昼食の時間
 3. 総合的な学習の時間
 4. 学級活動の時間
 5. 学校行事の時間(体育祭や文化祭など)
 6. 部活動の時間
 7. その他(具体的に:)

- 問4. 普段の生活や習い事、学校の課外活動などでやっていることがあれば、次のなかから選んでください。(〇はいくつでもかまいません)
1. 歌うことや楽器を演奏すること、音楽を聴くこと
 2. 演劇やミュージカルをすることや、観ること
 3. ダンスやバレエを踊ることや、観ること
 4. 絵を描くことや美術作品を作ること、観ること
 5. その他(具体的に:)

- 問5. 今回の時間を前から楽しみにしていましたか。(〇はひとつ)
1. 楽しみにしていた
 2. 楽しみではなかった
 3. どちらともいえない

学校アンケート用紙(中学生用)

- 問6. 今回の時間に参加してみて、どう感じましたか。(〇はひとつ)

1. 満足した
 2. 満足しなかった
 3. どちらともいえない
- どうしてそう思いましたか。

- 問7. 今回のような時間を、これからもまた受けてみたいと思いますか。(〇はひとつ)

1. 受けてみたい
 2. 受けたくない
 3. どちらともいえない
- どうしてそう思いましたか。

- 問8. 今回の時間を受けてみて、どのように感じましたか。(〇はいくつでもかまいません)

1. 芸術家と出会えたり、芸術家が目の前でやることを見たり聞いたり、ナマの芸術を自分で体験できたりうれしかった
2. 自分の気持ちを、音楽、お芝居演劇、ダンス、絵などにできてうれしかった
3. みんなでいっしょに、何かを作ったり、協力することが楽しかった
4. 自分自身で取り組んで、最後までやりとげることができてうれしかった
5. いままでは知らなかったような、友だちの良いところを発見できたと思う

- 問9. 今回のような時間を続けると、どのようになると思いますか。(〇はいくつでもかまいません)

1. いままでよりも、授業中に質問や意見をいうのが怖くなくなると思う
2. いままでよりも、自分のすることや言うことに自信をもてると思う
3. いままでよりも、からだを動かすのが楽しくなると思う
4. いままでよりも、本を読むことが好きになると思う
5. いままでよりも、ほかの人に言葉で気持ちを伝えられるようになると思う

問10. 今回のような時間を続けると、どのように感じますか。(○はいくつでもかまいません)

1. いままでよりも、演劇に親近感をもてると思う
2. これからは、市民会館やホール、劇場、美術館に行ってみたいと思う
3. 大人になったら、音楽、演劇、ダンス、美術などの仕事をしてみたいと思う

問11. 市民会館やホール、劇場、美術館などで、観たり、聴いたり、参加したことがあるものは、番号を○で囲んでください。(○はいくつでもかまいません)

1. コンサートで歌や楽器の演奏を聴いた
2. 歌をうたったり楽器を演奏したり、舞台上で発表した
3. 演劇やミュージカルをみた
4. 演劇をしたり、舞台上で発表した
5. ダンスやバレエをみた
6. ダンスやバレエを踊ったり、舞台上で発表した
7. 絵や彫刻や写真などをみた
8. 絵を描いたり美術を作ったり、自分の作品を展示した
9. 行ったことがない

問12. 今回の時間で、あなたが感じたことや、思い出に残ることがあれば、自由に書いてください。

問13. 市民会館やホール、劇場、美術館といった場所について、「こうしてほしい」と思ったことや感じていることがあれば、自由に書いてください。

***** ご協力ありがとうございました。*****

アウトリーチ実施校データ

平成25年度 モデル事業

参加団体	参加ホール	アウトリーチ講師	学校名	対象学年	参加人数 (人)	参加 合計 (人)
上田市	上田市交流文化芸術センター (2014年10月開館予定)	内藤 裕敬	中塩田小学校	4年生	95	95
(公財)豊田市文化振興財団	豊田市民文化会館	岩崎 正裕	明和小学校 ※ア	1～6年生	21	112
			中山小学校	5年生	91	
(公財)高知市文化振興事業団	高知市文化プラザかるぽーと	多田淳之介	行川中学校	1～3年生	23	55
		田上 豊	第六小学校	4年生	32	
【備考】 ※ア:連続2日間実施した。			小学校 4校 中学校 2校 合計 6校		262	

※団体・ホール名、学校名は実施当時の名称

平成25年度リージョナルシアターモデル事業報告書

発行 ————— 財団法人地域創造

編集 ————— 財団法人地域創造

発行日 ————— 2014年3月

